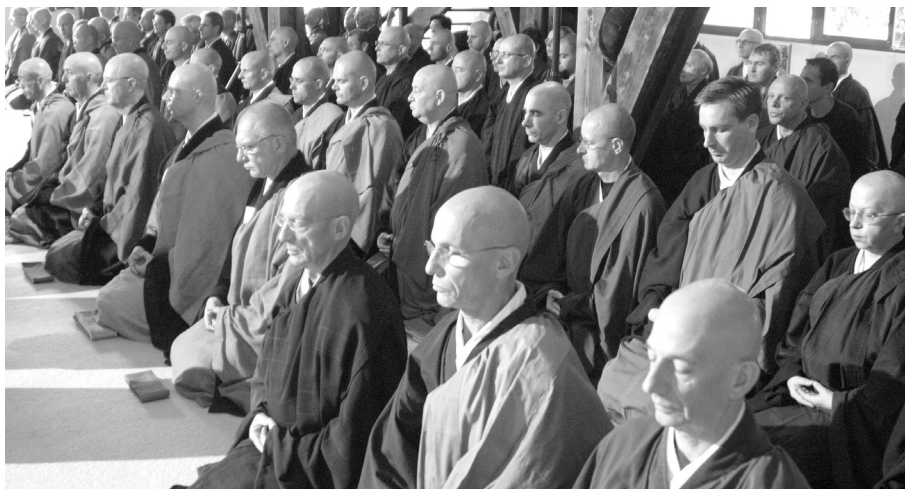




発行日 2007年8月5日 発行人 福島伸悦
 編集責任者 浅井宣亮 編集担当 赤間秀弘 編集委員 太田 内山 亀野 菅原 篁 細川(浩) さとう
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内
 Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>
 郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.35



CONTENTS

●巻頭	「感謝 合掌」	米国仏教団浄土真宗開教総長 小杭 好臣	1
●特集1	①両大本山ワークショップ講演録 講演録「如是願行」～私が歩んだ北米開教の道～	米国仏教団浄土真宗開教総長 小杭 好臣	2
	寄稿「同行二人」	米国仏教団浄土真宗開教総長夫人・浄土真宗全米婦人会連盟名誉顧問 小杭 真弓	6
●天平の響き	「シルクロード・音楽の旅」概要と出演者からのメッセージ		7
●特集2	ヨーロッパ国際布教40周年記念行事報告 参加報告「ヨーロッパに受贈がれてきた曹洞禅の新たな展開に向けて」	SZ I 事務局長 亀野 哲也	8
	寄稿「パリ・プロア禅道尼苑の旅に参加して」	石川県崇禅寺寺族 三香美成子	12
	寄稿「ノルウェー 武覚寺を訪問して」	神奈川県西福寺徒弟 西海 裕貴	13
●海外レポート	「ZCLA・仏真寺開創40周年記念行事」		14
●SZ I	国際布教支援金に対する現地からの報告「在家用応量器の寄贈御礼」	ブラジル イビラスー禅光寺 国際布教師 ビッチ・大樹	15
●会員投稿	『「釈尊入滅の地・クシナガラ」での生活』	橋本 恭子	16
●特集1	②両大本山ワークショップ・アンケート全文		18
●SZ I通信	会費納入者・賛助金納入者名簿		22
	動静報告・ホームページのお知らせ・編集後記		23
●「第9回ゆめ観音 in 大船アジアフェスティバル」	「シルクロード・音楽の旅」開催のお知らせ		24

巻 頭

感謝 合掌

お ぐい こう しん
 米国仏教団浄土真宗開教総長 小杭 好臣



永平寺での講演を終えて、控え室にてお茶を頂いていた時、修行道場の部屋の方角から、「ハイッ!」「ハイーッ!」「もっと腹から声を出せ」という、高らかな気合の入った声が響いてきた。私の世話をしてくれる先輩格の曹洞宗の方が、「永平寺の修行僧にとっては、返事は『ハイ』しかないのです。」と、教えてくれた。

修行の始まりは、「ハイ」に始まって、「ハイ」に終わることであり、「ハイ」に始まる指導者の声を聞き、「ハイ」に終わる仏の声を聞くのであろうと、感動してしまった。

その「ハイッ」と「ハイーッ」の間に働く宗教的精神的な深さを感じる。

浄土真宗米国仏教団開教総長の私のモットーは、「暗中に模索することを自分の生き甲斐とし、試行錯誤を恐れず」ということである。

答えのない中に手探りで模索することを自分の生き甲斐とし、新しく色々と試みることを恐れず、又、間違いを起こすことを

恐れないということである。悩みのない、不安のない、手探りのない生き方の中からは、何も生まれてこないのである。過ちや、失敗の中から大事なものが生まれてくるといえる。批判を受けないような行動からは、創造的なものは、生まれてこないといえよう。

海外に於ける仏教伝道は、他の宗教と対応して、仏教の特徴を生かし、魅力ある内容を示していくことであろう。教理においては、縁起に基づく仏法の原点をおさえて、信じようが信じまいが、正しく顕示される宇宙の真理、即ち、法に目覚めていく仏法の教えを示し、機に従って種々の方法をもって人々を導いていくことに精進する伝道開教の道であるといえよう。

それにしてもSOTO禅インターナショナルの役員、会員の心意気、そして、その意図を受けとめてくれる両大本山のリーダー達の広く、大きな心、色々なものから学んでいこうとされる禅僧達に会えて幸せであった。

私の接した禅僧達は、皆、それぞれに個性をもっておられたのだが、スカッとサワヤカナ心意気は、お互いに相通じて、アメリカに帰った今も印象に残る。感謝、合掌である。

特集1 / ①両大本山ワークショップ講演録

「如是願行」 ～私が歩んだ北米開教の道～

米国仏教団浄土真宗開教総長 小 杭 好 臣

今日は自分勝手なことを話したりしますので、私が話す前に、道元禪師の『正法眼蔵』「生死」巻と親鸞聖人の『親鸞聖人御消息』「自然法爾の事」を読ませていただき、私の話をここにまとめさせていただきたいと思います。

「生死」巻

ただわが身をも心をも、はなちわすれて、佛のいへになげいれて、佛のかたよりおこなはれて、これにしたがひもてゆくとき、ちからをもいれず、ころをも、つひやさずして、生死をはなれほとけとなる。

「自然法爾の事」

「自然」といふは、「自」はおのづからといふ、行者のはからひにあらず。「然」といふは、しからしむといふことばなり。しからしむといふは、行者のはからひにあらず、如来のちかひにてあるがゆゑに法爾といふ。「法爾」といふは、この如来の御ちかひなるがゆゑに、しからしむるを法爾といふなり。

どうぞ足を楽にして下さい。久しぶりに畳の上に座らせてもらいますと、アメリカでの生活が46年くらいになりますが、向こうで使われる絨毯というものがあんなに柔らかいものだったのだと気付かされました。まるで畳が石のように感じました。

ところで今日は、この永平寺の山内を案内していただきましたが、伝統の素晴らしさに感銘を受けました。また、人との繋がり、因縁の不思議さにますます不思議な心を抱きました。「不思議だなあー」と思います。人間は、良いとか悪いとか、損得や好き嫌いで物を見る習慣が長い間についてしまいますが、そういう感情を離れてフッと眺めると「不思議だなあ」という感情が生まれてくるかと思います。

昨日は總持寺で話す機会をいただきましたが、その時も「決して私を好きになろうとしなくてもよろしいし、私もあなた方を好きになろうとはしないけれど、不思議だなあというこの縁の感じは受け取りたいものであります。」と話をさせていただきました。「不思議だなあ」の「なあー」を延ばしていくと、理屈を超えていくような感じがします。ですから、今日あなた方にお会いできることも「不思議だなあー」と受け取っていますし、受け取っていただきたいと思います。

昨日に続き、本当に曹洞禅の修行と教えによって育てられた人達の心の寛大さに敬服いたし、安心させていただいております。修行によってこれだけのものが出来上がるとすれば、大切な行なのだという事を再確認させられます。總持寺や永平寺のリーダーの人達、先ほども監院老師にお

会いしましたが、実に心広々としたエネルギーに接することができました。同時にまたこのSZIのリーダーの人達、福島会長やスタッフのメンバーと昨日から一緒に行動しておりますが、全員がそれぞれの性格を持ちながらも、何か相通ずるものがある。昨晚「何だろう？」と考えておりました。それぞれの性格やそれぞれの癖というものは人間みな持って生まれてきます。だけれども、何か相通ずるものがそこにある。それはなにかスカッとしたもの、転機の転換の早さでしょうか。囚われない心というか、寛大というか、そういうものをはっきりと感ずることが出来ます。ですから、本日は監院様をはじめとして永平寺のリーダーの方々に心から感謝致します。またSZIの、曹洞禅の世界への羽ばたき、道造りをしていこうとされる姿に感心し、心強く思います。

ところで私と曹洞禅の縁もまた、私の善悪損得の判断を超えて出来上がってきたものでありまして、自分自身不思議だなあと思います。鈴木俊隆老師をはじめとして、片桐大忍老師そして森山大行師、藤川享胤師、細川正善師、今の秋葉玄吾北米総監とも親しくさせていただいておりますが、その他ロサンゼルス禅宗寺の国際布教師の方々、サンフランシスコ桑港寺の国際布教師をしておいでになった方々と不思議にも繋がっていく。この不思議ということは良いですね。いろんな思いで考えても理屈でも説明出来ない、そういうものを不可思議と表現するわけですけど、まさしく私の善悪損得好き嫌いを超えて出来上がっていることに気付くわけです。その中から1つ2つエピソードというか、今の私の心に残るものをお話したいと思います。

まず鈴木俊隆老師に関するものです。今日、鈴木包一単頭老師にお会いできました。いつもお会いしたいと思っていたお人であり、非常に嬉しく思いました。鈴木俊隆老



永平寺監院寮拝問

師に会っているような気もしまして、感激しました。その鈴木俊隆老師との出会いのエピソード、私を生かした、生かしてくれたストーリーをいくつかお話ししたいと思います。

1962年、大学を出てすぐにアメリカに渡り、ロサンゼルス別院というところに赴任いたしました。22才の若さでしたから、色々な思想や願いというものが大きくて、色々なものの考え方の食い違い、あるいはライフスタイルの違いのため、アメリカの生活になじめませんでした。また英語の実力のなさということで、自分自身が非常に自信を無くしていた時でありました。そういうこともあり、別院の長である輪番と喧嘩しまして別院を追い出されました。追い出されてもどこへ行ったら良いか分からないので、米国仏教団、浄土真宗西本願寺派のアメリカにおける本部ですが、その花山信勝総長のところに身を預けたわけでありました。身を預けたという聞こえが良いですが、監視下に置かれたわけです。その時に私は、本当に自分の実力のなさや将来性のなさなどを痛感し、日本に帰った方が良いのじゃないかなと悩みました。帰るにしてもたった1年か2年で日本に帰るということになればあまりにも情けないし、親にも申し訳ないし、友達にも調子が悪い。ますます参ってしまいました。当時、私は米国仏教団の本屋さんで働いていましたが、ある日鈴木俊隆老師が本を買いに来られました。鈴木俊隆老師は60才を超えておられたと思いますが、私を見抜いた上で「あなたは浄土真宗の若いお坊さんでしょ。うちの坐禅に来てみたらどうや。阿弥陀如来様も許して下さいよ。」というようなことをおっしゃったことを覚えています。それから桑港寺で坐禅をさせてもらうようになりました。

そのころ、つまり1963～67年はアメリカにおいてはケネディ大統領が暗殺されたり、弟のロバート・ケネディが暗殺されたり、ベトナム戦争が長引いたりしていた時代であります。アメリカの若い世代の多くが本当に嫌気がさし、国の政治に失望して家出をしました。サンフランシスコを中心にして特にアッシュビハイツという地域に、アメリカのいたるところから家出をした子どもたちが集まってきました。そして、自分達が愛情を示してあげることが出来る、人を愛することが出来るということで、コミニオンスタイルの生活をしまして、どんな人とも仲良くしようと思いました。だから、道行く人と会ったら抱き合ってキスするとか一緒に住もうと言う。そういう時代がありました。鈴木老師のところにも、そんな若者達がたくさん坐禅に来ました。私もそういう人達と接することが出来まして、本当にアメリカはどうなっているのだろうと感じた時代でした。

坐禅をさせてもらいますと、最初の頃は自分の醜さとか情けなさが見えてきて、本当に「俺みたいのは役に立たんからもう死んだ方が良い」というような気になったことを覚えております。それで俊隆老師に「俺みたいのは死んだ方が良いと思うのですけど」と相談したことがあります。その時に老師から「そんなにね、あわてて死ななくても良い。必ず死ぬから。死ぬ時が来たら、その時に必ず死ぬ。それは約束する。だからあわてんで良からう。」ということを開



WS大本山總持寺 真剣に聴き入る参加者
(大講堂にて)

きました。私は何となく分かったような分からない様な中でも「そりゃそうだろう」ということで、23才の私にはその言葉が強く心の中に突き刺さって、私を生かすことが出来たのであります。大げさのようですが、「それによって私がここまで生きて来られた」ということは、自信を持って言えます。

ところで、俊隆老師はそんなに背が高く大きな人ではありません。小柄な方です。だけれども坐りますと、何か大きな岩が坐っているように感じる、優しく力強い人でありました。当時自分は、英語の実力が無いということに失望し情けなく思っている頃でした。そういう時に鈴木老師が80～100人位の大衆の前で話される機会がありました。今でもはっきり覚えています。私は、日本語が分からない大衆の前で、老師はどのような英語で話されるのだろうかと期待しておりました。ところが、なかなか話されない。しばらくしましてから「ツデイ(Today)はじゃな、イズ(is)やっぱりツデイ(today)じゃ。」と言われ、またしばらくゆっくり歩いてから「ツデイイズノットイエスタデイ (Today is not yesterday) じゃ。」と言われました。"はじゃな・やっぱり・じゃ"は日本語です。そして「ツデイイズノットツモロウ (Today is not tomorrow) じゃ。」そこまで話されたら、前に坐っている白人の襟首を捕まえて「ドゥーユーアンダスタンド (Do you understand?)」と尋ねました。その白人がびっくりしていた姿を今も覚えております。そしてにこっと笑って「グッバイ (Good-by)」と言われて去られたのです。しかし、聞いている私をはじめ、皆が動かないのです。坐ったままなのです。もう済んだのですから立って出て行っても良いのですが、動けないのです。

たったあれだけの言葉であれば、中学高校で英語を習った私はとくに知っています。その時に「やっぱり言葉じゃないな。」と感じました。言葉の持つエネルギーというか力というか、迫力、気といったものでしょうか。そういうものがあつたのでしょうか、私はこれらは坐禅の力によるものだと思います。坐禅によって自然に創り上げられた迫力、気力に感動しました。・・・そういうことを覚えております。



WS大本山永平寺 講演中の総長ご夫妻

次は少しおかしく面白いエピソードを取り上げてみたいと思います。その頃、片桐大忍老師が鈴木老師のところに日本から来られ、一緒に坐禅をさせてもらいました。ある時、ヒッピーの若い女性が一人、裸同然で坐禅をしに来ました。裸同然というのは、テニスコートのネットを着ているわけです。テニスコートのネットというのは網の目が荒いです。それを縫い合わせたものを着て坐っている。鈴木老師は片桐老師を見て「これを被せるように、持って行ってあげなさい。」と言って、風呂敷を出されました。すると今度は片桐老師が私の顔を見て「いや、やっぱりあなたが良い。」と言い、私にその風呂敷を下さるので、私がそれを持って彼女のところに行きました。彼女は結跏趺坐で坐禅をしていますから、「これを前に掛けて下さい。」と言いましたが、その可愛い金髪の娘さんは「この服は私のベストドレスだから、そんなのを掛けたらデザインが崩れる。」と言うのです。その時私が言ったセリフには、今もって自分自身感心しております。フッと出てきた言葉は「あなたはね、悟っているから良い。けれど、前に坐っている男の人はまだ悟っていないので、落ち着かないでしょう。だから親切にしてあげて、前を被せてあげなさい。」というものでした。すると彼女はにっこり笑って「それもそうね。」と言って、前を隠してくれました。・・・そんなこともありました。

またある時、片桐老師がパークレーというところで坐禅を指導するというので、一緒について行きました。その坐禅の後で、コーヒーとかお茶とかが出ました。それにつれて、一つのパンも出されました。そのパンを食べていたら、ふらふらして宙に浮くような感じになりました。これはおかしいと思って、横にいた女性に「これはどうやって作ったの。」と尋ねたら、「あなた方二人の先生が来られるから、マリファナ入りの特別なパンを作った。」と言います。私は片桐老師に「これはマリファナ入りですから、すぐに運転してサンフランシスコには帰れない。危ないですよ。」と言いました。すると一人の女性が「後ろの庭の方にお風呂があるから、それに入りなさい。」と言います。そこで片桐老師と裏の庭の方に回ったところ、大きな風呂がありました。その風呂に「これはいいな。」と言いながら二人で湯船につかってお

りました。すると今度は黒人の女性と白人の女性が二人「ハイ！」と手を振りながら裸で風呂に近づいて来ました。片桐老師は非常にきちんとしたジェントルマンでまじめな方です。「どうしようか。出ようか。」と私に言うのです。私は「良いじゃないですか。裸で入ってくるのだから。これ、良いチャンスですよ。」と言いましたが、片桐老師は「いや、やっぱり出た方が良い。」と言います。「いや、出ないで良いですよ。」と私が言っていると、「ハイ！」と手を振って二人が湯船に入ってきました。こちらは始めどうして良いか分からず、ぎこちなかったですが、向こうは飄々としています。帰りに片桐老師に「さてさて、囚われたのはどちらだろう。」と言うと、老師は「やっぱり、裸に囚われたのは私とあなたですよ。」と言い、二人して笑いながら帰ってきたこともありました。

片桐老師が亡くなられた後、"老師の遺言の中に、自分が死んだら弔辞は私に述べて欲しい"ということが書いてあると片桐老師の奥さんから電話がありました。そこで片桐老師のお葬式の時に、この話をさせてもらいました。葬儀にはたくさんの弟子達が集まり、みんな悲しんでいました。この永平寺からも秦禪師がいらっしゃっておられました。私の弔辞は下手な英語でしましたので、秦禪師から「みんな泣き笑いでいたけれど、何を話したのか。」と尋ねられました。

片桐老師はいつも頭を搔いて「いやー、どうしたら良いかな。」と言われていました。「どうしたら良いか分からん。」と言いながら、色々なことをたくさんしてお亡くなりになりました訳ですが、先ほどの話を弔辞の時にさせていただきました。

今永平寺に来ているから言うわけではありません。正直なところ鈴木俊隆老師に会い、また片桐老師に会うことが出来て、今の私がある。"ということに心から感謝しております。日本に帰ろうと思った時、そして俺はダメだと思った時期でした。やはり坐禅で鍛え上げてきた人達のエネルギーというのは、本人は意識しておいでにならないけれど、相手を動かす言葉となって現れて来たり、人に生きる力や勇気付けたりしてくれる。口では説明しにくい、そういう力があるということはいえると思います。

あの時、鈴木老師と会わなかったら、今自分が米国仏教団の開教総長のポジションにいることはなかったと思います。そういうことで現在の私は、全米65か寺55人の開教使の責任を持っております。ニューヨークからシカゴ、デンバー、ソルトレーク、サンディエゴ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトルなど全米に65のお寺が広がっていますが、それらのお寺を回っています。55人の開教使の内、7人は白人です。また21人が日系アメリカ人、27人が日本から来た開教使です。その27人の内24人までは、10年以上の永住を覚悟した開教使です。ところで、開教使とは"教えを開く使"ですが、中には"教えを開かない使"もいますから、それは"閉教使"と呼んでおります・・・。

鈴木老師に会って生きる力を作り上げてもらった私は、オハイオ州クリーブランドというところに自分で希望して赴任いたしました。オハイオ州は五大湖の一つであるエリー湖の下です。あまり日本人が行かないお寺に自分から転任させてもらいました。そこでまた色々な体験をさせてもらいました。私が失望したり自信がなくなったりした時にはいつも、鈴木老師の「まあ、良いから。10年くらい続けておいたら、必ず何か出てくるから。」という言葉が思い出されました。それで続けることが出来たのであります。

オハイオ州クリーブランドなどに行きますと、宗派がどうのこうのではないのです。もう仏教すら知らないのです。仏教、ブディズムなどというと神秘的なミスティックなものであろうと思われます。特にクリーブランド辺りはバイブルベルトという、熱心なキリスト教徒が住んでいるとても良い田舎です。人はとても良いです。しかし、他の宗教を受け入れるということにはとても難しいところでした。私もどうして良いか分かりませんでした。が、「どうにかなるだろう」という自信を作ってもらったおかげで15年いられたわけです。色んな怖いこともありました。砂漠で生まれた一神教であるキリスト教は厳しいです。しかし、今では色々な人種が集まるお寺になっております。

そこでの経験で私が得ましたことは「暗中に模索することを生き甲斐とし、試行錯誤を恐れず。」というものです。こういうことを自分に言い聞かせながら、ああでもないこうでもない色々なことを試みたのがクリーブランドでの15年でありました。

時間が限られていますので、最後に短くまとめさせていただきます。

アメリカにおいて仏教に対する期待は、知識階級の中にも、非常に大きいです。イラク戦争などにも宗教が絡んでいます。砂漠で育った一神教の厳しさと限界という中で、仏教というものが今まで以上に人々から求められるということは、私自身言えると思います。仏教の素晴らしさは、信ずるというより、物事は因果律に基づいているという智慧と慈悲の味わいと実践が強調されて、目覚めていく道が教えられていくという良さを持っていることが基本となって

おります。こういうことで、仏教に対する期待は非常に大きい。北米における曹洞禅のグループは300近いのです。鈴木老師のような師匠の影響を受けた人達からまた指導を受けて、という広がりを見せていることは間違いありません。こういうものをまた上手に育てていこうとすることが、SZIの目指される所かと思えます。

アメリカに限っていえば、伝統の素晴らしさを保持しながら、現代の今にどのようにそれを応用していくのかということが、私達やあなた方に与えられた課題だと思うのです。アメリカでは、曹洞禅も浄土真宗も出家の形を取っていません。結婚をし子どもを持ち、肉を食らい魚を頂いて、大衆の中に生きています。こういう状況にどのように接し、指導していくかということが課題だと思います。

また曹洞禅に、アメリカでチャレンジしていただきたいことは、男女平等であるということです。日本の文化の伝統といったところに、何か男尊女卑で、女を大切にみつかわないという要素がないでしょうか。曹洞禅でも得度出家して住職になるのは男が中心です。そういうものがアメリカに流れてきますと「何で男女の差を付けるのか」ということになってきます。女性が指導者となっていく道がはっきりと示されていかなければならない。

もう一点、現在浄土真宗がアメリカで一番チャレンジしていますのは、親鸞聖人が味わわれた教えを、アメリカ人に合うようにどのように解釈していくかということです。聞いている人達に「ああ分かりやすい」、「ついていける」、「私の宗教・うちの家族の宗教にしたい」というものが出てこなければいけないと思います。

最後になりますが、ここでしっかり坐って修行された皆さんは、ここを出たら、今度は一生懸命思い切って立って動いて、色々な分野で教えを生かしていかなければならないと思います。生活の中に入った曹洞禅というものが出てこなければならぬ。そこにはやはり、カウンセリングとか病院や監獄のチャプレンなどが生まれてこなければならぬ。私はSZIの人達が外に出て色々な分野で活躍されているということ、非常に力強く思っております。このように、外での活躍が大切だと思います。また、外に出た場合、お坊さんだけの付き合いではなく、色々な分野の人達と付き合い合ってください。色々なものを広く学んで、広く禅の教えを一般大衆が付いてこられるような解釈の元で指導していかなければならないと思います。

(文責) 浅井宣亮



WS大本山永平寺 姿勢を正して拝聴する雲水たち (菩提座にて)

※編集部補足

小杭先生が述べられた片桐老師のエピソードは、あくまで当時（ヒッピーの時代）の話であり、現在の禅センターにおけるものではありません。

浄土真宗は曹洞宗より男女平等という点において積極的です。小杭先生も講演の際には必ずご夫婦で出席されるそうです。

特集1 / ①両大本山ワークショップ講演録

寄稿 同行二人「米国仏教団浄土真宗開教夫人の伝道」

—両大本山ワークショップで感じたこと&開教使の妻から見た米国開教—

米国仏教団浄土真宗開教総長夫人・浄土真宗全米婦人会連盟名誉顧問 小 杭 眞 弓

はじめに、この度のSOTO禅インターナショナルのワークショップに於いて、曹洞宗北米開教歴代の諸先生方との御縁が実を結び、浄土真宗米国仏教団総長として主人が總持寺、永平寺で講演の機会を賜りましたこと、福島会長を始め、多くのスタッフの方々から感謝御礼申し上げます。

さて、私が曹洞宗の両大本山に拝登させていただき、最初に感動した事は、他宗の話を聞き、学んでいこうとする心の広さと、曹洞宗のお坊さん方の礼儀正しさ、人を敬う気持ち、そして仕事の早さです。しかも、その、きびきびした動きの中であって、周りの人をゆったりとさせ、とても素晴らしい一時を得ることができました。

その後、お寺の中を案内していただき感じたことは、改めて日本のお寺は「男の世界だなぁ」という印象でした。それは、私も日本を離れアメリカでの生活が長くなり、夫婦の場合同行が当たり前のアメリカ社会で、何処に行くにも同行二人？で生活している私にとって、とても不思議な光景に写りました。

こうして和尚さんが留守の間、奥様方は、お寺を守り、公の席にも御夫婦で出席できないのは、文化の違いと再認識させられました。

さて、浄土真宗では、今年で仏教婦人会創立百周年を迎えます。この100年の長い年月を積み重ねて来られたことは、教団を支える影に婦人会の力が大きく、教団にとって婦人会員の働きが重要な役割を担ってきました。

日本と海外の寺院運営の違いは、檀家制度は無く、メンバー（会員＝信者）制が敷かれている点であり、開教寺院の収入は、会費とバザー等の収益によって賄われます。

その中、坊守（ぼうもり＝お寺の奥様）は、バザーの時期になると、メンバーと一緒に台所で働きます。そして、お寺での大きな法要の後には、一緒に食事の用意もするので、婦人会のメンバーも喜んでくれます。しかし、洋の東西を問わず、坊守が出すぎたり、仕切り始めたりすると婦人会の方々もいやがります。又、その一方で消極的だと「あの奥さんは、フレンドリーでない」、そのバランスを保つことも難しいところです。

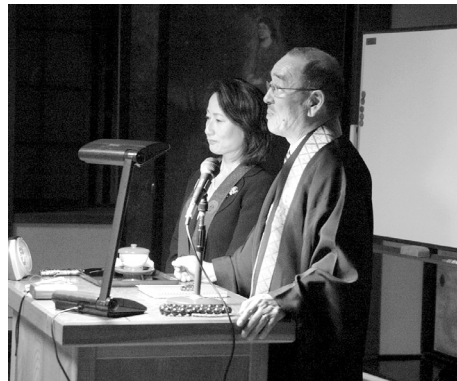
定例の行事で毎週日曜日には、お寺にお参りし、お仏飯を作り、内陣のお花を生けられる坊守もおられます。お寺の会報をお手伝いしている方もおられます。ゲストスピーカーがいらっしゃると自宅に泊まっていたり、食事の用意をされることもあります。

今は、日系三世の坊守も大勢いらっしゃるで、日中働かれている為、日曜日だけ、バザーの時期だけに手伝いする方もいます。又、まったくお寺には関係したくないという坊守もいらっしゃいます。これらは、すべてボランティアなのです。

アメリカでは、世襲制ではないということが大きく関わってきていると思います。



BCLA屋上の仏舍利塔にて



両大本山WSにて

米国仏教団の開教寺院は全米に65か寺ありますが、開教使もサラリーマンと同じく、定期的あるいは希望により、お寺の異動があります。特に日本から来た坊守は、環境、習慣の違い、人種の違い（日系人社会、白人社会など）、英語にも慣れていかなければならないので、開教使の先生と同じく、チャレンジだと思います。

当地のお寺は非営利事業団体として政府に登録し、その運営を会員の代表である理事会が行い住職を雇用している、という点が日本とは違うかと思います。

現在、全米に55人の開教使がおります。特にその中の5人は女性で、男性と対等に職務をとっています。男女の性の違いを超えて、差別なく仏法を広める為に精進しておられる姿は、本来の仏法の良さが現れ、アメリカでは心強く受け取られています。

私も総長夫人、又、全米婦人会連盟名誉顧問として、主人と共に出席し、人前で挨拶する機会が多くなりました。これも男女平等の思想から生まれた社会・文化の違いの一つであるかと思います。

親鸞聖人は、肉食妻帯の立場で、仏法を奥様と一緒に広められました。嬉しいことに、主人も、やはり夫婦二人で行動していこうという意向を持ってくれているので、私も心強く思っており、やりがいもあります。このことは、取りも直さずその支えが無くてはできません。

これからの社会は、更にグローバル化が進み仏教界においても、国際的な波に吞まれ、女性の役割が大事な要となって来ることでしょう。そして、互いにそれらを認め合いながら、女性の地位向上と地域社会の為に、努力をしていかなければならないと思っております。

今後、こうしたジェンダーフリーの動きは急速に展開してくることかと思えます。それは、仏教界、各宗派にあっても避けて通れない問題となってくることでしょう。こうした問題を一つ一つ真摯に受け止め、現場で布教する住職と坊守が互いに意見を交わし模索しながら、本来の仏教のあるべき姿を伝え広めることができれば、お寺は必ずや多くの人々に安心を与える心の拠り所として、地域と共に歩むことができると信じております。

これからは宗派の垣根を越えた中に仏教が一つとなり、その素晴らしさを世界に示すことが出来るよう念じております。 合掌

注 開教使＝対して曹洞宗宗門では開教師としていた。又、曹洞宗宗門に於いて現在開教師の名称は無く、国際布教師と改正された。

天平の響き「シルクロード・音楽の旅」

"世界唯一" 総檜のコンサートホールで聞く
天平の響き「シルクロード・音楽の旅」

神奈川県湯河原町・吉祥院（住職・尖秀雄老師）では、昨年5月、日本古来の工法による総檜造りの大ホール「ユニセフ檜チャリティーコンサートホール」を完成させました。

このホールは、「日本の檜を世界の音楽と子どもたちのために」というコンセプトの元、日本古来の木組みと漆喰壁を生かし、吉野や箱根の大檜をたっぷりと使った世界随一ともいえる新しいコンサートホールです。世界中を渡り歩いて活躍されてきた尖老師の、その経験から生み出されたものともいえます。

2007年 8月25日(土) 16:00開場 17:00開演

会 場：檜チャリティーコンサートホール

J R東海道本線 「真鶴」 駅より徒歩20分

入場料：前売 3000円 当日 3500円

予約・問い合わせ：「ろくよう社」 TEL 0463-93-1505
(限定300席です。ご予約はお早めに！)

主 催：JWS

協 力：SOTO禅インターナショナル

後 援：神奈川県仏教会 URL <http://silkroad.jpn.org>

出演者は、

シャオロン（中国琵琶：女子十二楽坊プラティアアカデミー中国古典楽器スクール主任講師）

曹雪晶（二胡：TBSニュース23のテーマ曲を演奏）

田淵勝彦（箏：雅楽演奏団「伶楽舎」所属）

海老原廣伸（声明：七聲会主催・国立劇場、イタリア、フィンランド、ドイツ、イタリア、スイスなど公演多数）

木崎二郎（ピアノ・司会：JazzWork Shop主催）

中屋博之（ドラムス：「ボニー・ジャックス」バンドリーダー）

宮崎正秀（ベース：「ゲイスターズオーケストラ」メンバー）

と、各方面の名演奏家が集まります。

演奏予定曲目は

- | | |
|-------------|-----------------|
| ・唄（ばい：声明） | ・今様越天楽 |
| ・散華（さんげ：声明） | ・おぼろ月夜 |
| ・茉莉花 | ・ふるさと |
| ・アラムハン | ・スターダスト |
| ・ウシュクダラ | ・ジュピター |
| ・草原情歌 | ・アメージンググレース |
| ・だったん人の踊り | ・蘇州夜曲・何日君再来・夜来香 |
| ・今様諸天讃 | |

のように、ジャンルを越え、シルクロードを経て日本に伝わってきた仏教の流れを音楽で感じていただけるような曲の構成を考えております。

ユニセフ檜チャリティーコンサートホールへは、東海道線・真鶴駅よりタクシーにて5分ほどで到着します。

当日は、真鶴駅改札の前に案内のスタッフが立つ予定でおります。

是非この機会に、世界唯一総檜のコンサートホールで聞く、天平の響き「シルクロード・音楽の旅」コンサートを、ご家族、知人、檀家さんなど多くの方に楽しんでいただきたく存じます。

出演者スタッフ一同心よりお待ち申しあげております。

なお、チケットは限定300席となっております。

ご希望の方はお早めにお願ひします。

演奏会の詳細は <http://silkroad.jpn.org> をご参照ください。

（文責）亀野哲也

出演者からのメッセージ

中国琵琶 シャオロン

このコンサートは音楽の境界を超え、声明を始め、民族楽器と世界各民族の音楽とを融合し、シルクロードで結ばれた民族と文化、宗教と音楽を越えた素晴らしい風景を日本で活躍する各国の演奏家の演奏により、我々心の扉を開け、音楽の力で人と繋がる真のコミュニケーションを多くの人に感じてほしいと思います。琵琶奏者としてこのコンサートに参加させてもらったことは、とても嬉しく、多くの皆様の手と目と心で支えられ、且つ斬新なイメージが残ることを確信しております。

シャオ・ロン

しちせいかい えびはらこうしん
天台宗七聲會 海老原廣伸

天台宗の声明

声明とは、バラモン僧の修得すべき五明（因明、内明、医方明、工巧明、声明）のなかの一つで音韻学・語学を意味しますが、現在ではキリスト教に賛美歌があるように佛を讃歎する為の仏教賛歌としても解釈されています。

本来法要儀式に於いてお導師の修法にあわせ讃歌としてお唱えする「声（唄）のお供えであり、修法成就の後押し役」でもあります。から、天台宗のみならず日本の仏教教団ではどの宗派にも経典や佛名・題目・偈誦に独特のお唱えする節を付けた「声明」があります。

声明は音楽でありますから楽典があり、西洋音楽のハニホヘト・・とか、ドレミファ・・とか言われるものと同じような音階理論（宮・商・角・・・と壹越・断金・平調・・等）があります。

特に天台宗声明の特徴は「旋律型」と呼ばれるメロディックパターンが数十種類あり、この型を唱え続けて鎖のようにつなげ曲として完成させていきます。加えて塩梅（えんばい）という旋律型の前後に付けられる偉音があり、これが天台声明独特の音楽の美しさをかもし出しています。

西洋音楽の源流に「グレゴリア聖歌」があり声明と近似しているといわれるところは「男声・斉唱・無伴奏」という部分です。

けれども、声明に音楽伴奏を付ける事は昔の記録には雅楽の「散吟打球楽」と「声明三十二相」との合奏があり、四十年前の国立劇場柿落としの際に比叡山の方々に依って披露されました。この時同時に公演されたのは真言宗豊山派の「大般若転読会」でした。

私たち七聲會は、天台宗の声明を学びながら「声明と現代音楽との融合」をテーマにして今までは創作音楽を、また真言宗声明、天平楽府等とのコラボレーションを数多く行ってきましたが、今日初めて天台宗声明と曹洞宗声明を重ね合わせた声明曲「散華」をコラボレーションしてお唱えし、共に「諸仏を勧請せんがために道場を荘厳するの意」をもったの華を散き、その後、天台声明「諸天讃」に中国琵琶・二胡・箏・ピアノ・ベース・ドラムスで伴奏する現代的な曲付けをした「今様・諸天讃」をお聴きいただきたいと思います。

特集2 / ヨーロッパ国際布教40周年記念行事報告

参加報告「ヨーロッパに受嗣がれてきた曹洞禅の新たな展開に向けて」

S Z I 事務局長 ^{かめ の てつ や} 亀野哲也

平成19年6月8日(金)～6月10日(日)、曹洞宗ヨーロッパ国際布教40周年行事がフランス・禅道尼苑寺において開催されました。

ヨーロッパにおける「禅」の実践布教の歴史は、1967年に弟子丸泰仙師がシベリア鉄道経由で渡欧し、積極的な布教活動により、多くの人々が弟子丸師の許で坐禅を中心とした教えを受けることとなったことを、その出発点と捉えることができます。

平成19年(2007年)は、弟子丸師渡欧から40年の節目の年です。また、記念行事の会場となった禅道尼苑寺は、弟子丸泰仙師の主要な活動拠点でありました。

この記念行事には、日本からは潤英徳宗務総長、南澤道人・藏山光堂両参議、青山俊董愛知専門尼僧堂長をはじめ、宗議会議員諸老師、宗務庁秘書課長、国際課長、国際課職員、そして、関係諸老師、寺族関係者約60名、ヨーロッパより今村源宗国際布教総監、国際布教師、総監部職員約30名、北米より秋葉玄吾国際布教総監、奥村正博曹洞宗国際センター所長、センター所員、国際布教師、関係者約40名、南米より采川道昭国際布教総監、国際布教師2名、AZI関係者、ヨーロッパ各寺院及び禅道場のメンバー、など合わせて約500名を超える方々が世界中から集まりました。

福島会長と私は、SZI協力事業として、ヨーロッパ国際布

教総監部主催のツアーにて、小笠原隆元老師、松野宗純師夫妻、三井高周氏、羽仁素信師、鬼頭叙親師、柿田宗芳師、大室俊英師、渡辺清徳師、星野邦さん、三香美成子さん、西福寺様ご家族と行程を共にさせていただきました。

■ 弟子丸泰仙師とヨーロッパ国際布教の概略

ここで、ヨーロッパの禅の布教に大きな役割を果たした弟子丸泰仙師(1914－1982)について簡単に触れたいと思います。

佐賀県に生まれた弟子丸師は駒澤大学在学中に澤木興道老師に出会い、社会の中で「禅」を実践するよう勧められます。社会に出てから、実業家として成功し、海外経済協力事業団を設立したり世界仏教平和運動を実施するなど、積極的な活動を行いましたが、いずれも順調に事は運びませんでした。そのような中、澤木老師晩年の1965年に出家し、1967年、澤木老師の遺命によりヨーロッパで「禅」を広めることを決意し、単身渡欧します。

1970年、フランス・パリ市内に 仏国禅寺(AZI)を設立、驚異的かつ精力的な行動力で布教活動が展開されました。

パリで活動を始めてから3年後、1973年に、当時の一番弟子、Alain Cassan 仙龍氏から土地建物の寄進を受け、アパロンの地に大乘禅寺を開設します。

1976年には、ヨーロッパ総監部がパリの仏国禅寺に設置され、翌1977年には開教10周年記念行事が田辺宗務総長初め多くの参加者により盛大に開催されました。

弟子丸師の教師分限の問題に対し、宗門関係者のはからいにより、1977年より二年間の永平寺安居の後、永平寺貫首山田霊林禅師より嗣法を受け、初代のヨーロッパ開教総監に就任します。

その後も精力的な活動は衰えることなく、さらに、増え続ける信者に対応するため、また、世界文化交友センター構想を実現させるために、1980年、プロウ市郊外に泰西仏教第一道場たる禅道尼苑寺が開設され、大乘禅寺は禅道尼苑寺へと移転されます。

弟子丸師が渡欧されてから、ヨーロッパ各地に何十もの禅道場が作られ、弟子丸師の教えを受けるものは数多いのですが、1982年弟子丸師が遷化されてから、二十数年間、ヨーロッパ



ツアー参加者

の禅は宗門から離れた歴史を歩みます。しかし、高祖大師750回大遠忌を機とした2002年によりよくヨーロッパ開教総監部（現国際布教総監部）が再設されました。

宗門から離れていた間も、ヨーロッパ各地で曹洞禅が着実に継承されていたことは、今回の40周年記念行事が盛大に開催されたことを見ても明確に感じとることができます。

弟子丸師のヨーロッパにおける布教活動に直接関わり、彼の許で過ごした2名の方にお話を伺うことができましたので紹介いたします。

■ 大乘禅寺と鐘楼堂の思い出

（一番弟子のAlain Cassan せんりゅう 仙龍氏へのインタビューより）

私は1969年から弟子丸師遷化直前まで一緒に過ごしました。1973年に先祖から受継いできたアバロンの屋敷を寄進し、これが大乘禅寺となりました。その時代には15人くらいの僧侶が常駐し、摂心の際には100人もの参加がありました。また、伽藍整備のために寄付を募り、集まった資金で鐘楼堂などを建立しました。

アバロンは、イタリアやドイツなど近隣諸国からアクセスしやすいというだけでなく、カトリック教徒にとっては、イスラエルへの通道の途中に位置するという、宗教的にも重要な場所でもあります。しかしながら、夏期に8回、毎回300人は集まるサマー摂心のために、わざわざアルプスのホテルを借り切る必要があるなど、伽藍として手狭となり、摂心が出来る禅堂を造るため、弟子丸師自らロワール地方の城を見て回り、気に入った場所を見つけたのが、現在の禅道尼苑となる25万坪を有する広大な館でした。

1980年に禅道尼苑に弟子丸師の拠点が移転した後は、大乘禅寺は他人の手に渡ってしまいます。しかし、屋根の曲線美を苦勞しながらみんなで造り上げた鐘楼堂だけは、泰西仏教第一道場のシンボルとして、大乘禅寺から禅道尼苑寺に移築されることとなったのです。



アバロンより移築した鐘楼堂

■ 弟子丸師に従事した時代を振り返って

（元国際布教師 ほりべみょうこう 堀部明宏師へのインタビューより）

振り返ってみるに、1978-81年の足掛け4年間、ヨーロッパ国際布教師（当時は海外開教師）として赴任させていただきました。本山修行時代に弟子丸師の著された『禅僧一人ヨーロッパに行く』を読んで感銘を受け、同じ僧侶としての道歩むのなら、苦勞してでも違った世界を見てみたいという単純な

発想から弟子丸老師の元へ、半ば押し掛け渡欧でした。半年後に宗務庁諸師からの推薦をいただき、ようやく開教師として任命され、私は実質ヨーロッパ最初の開教師となりました。

当時、弟子丸師の指示により、4人程の開教師が担当を割振られ、南はモロッコ、北は北欧、東はウイーンまでヨーロッパ十数カ国を、毎週土日の度にシトロエンに坐蒲と木魚と鐘を抱えて摂心に向向くという活動が主でした。

弟子丸老師のカリスマ性はさわだっており、我々開教師が摂心に向向いても30人ほどの参加者しかないところを、弟子丸師の元にはサマーキャンプなど年に数回の摂心を行うたびに、300人前後の参加者が近隣諸国から集いました。まさに、弟子丸師の移動に伴って、摂心参加者も移動するという状況でありました。日本の常識・発想をはるかに超越したバイタリティーに溢れた活動でした。

弟子丸師は「開教は戦いである」「気を抜いたら弟子は去って行ってしまう」「参禅者に誠意を持って禅の素晴らしさを伝えなければならない、それが曹洞宗僧侶の使命である」と日頃、常に開教師の方々に伝えていました。言うは易し、それを実行するのは大変で、金土日と地方に出て、週明けからバリで執務し、また週末に出かけるということを毎週毎週、それこそ摂心のドサ回りのようなことを繰り返すことにより、着実に禅はヨーロッパに定着していったのだといえます。

日本だと曖昧ですまされることも、この地では、白か黒か明確にし、約束は必ず成し遂げないと信頼を失ってしまう、それが一番きつかったと感じます。けれども、それだけやりがいのある職務でありました。

■ 40周年記念法要・追悼法要



40周年慶讃歎仏

第一日目には、弟子丸泰仙初代国際布教総監追悼法要（導師・今村源宗ヨーロッパ国際布教総監）、第二日目には、ヨーロッパ国際布教功労者追悼法要（導師・澳英徳宗務総長）、第三日目 ヨーロッパ国際布教40周年慶讃歎仏（導師・トリエ道光国際禅協会会長）が厳修されました。

第三日目の慶讃歎仏では、ヨーロッパ管内国際布教師が中心となり、厳粛な儀式が行われました。この節目の年に、世界から集った多くの人々と共に心を合わせ、同じ経典を読み、合掌し、法会を営む姿は、弟子丸師はじめ、先達諸老師たち

が撒かれた種が、しっかりと根付き、受嗣がれている姿として実感することができました。

香語の中に読み込まれた

青松不礙人來住 野水無心自去留

(訳) 緑あふれる松は、永年、この木陰を訪れ、そして去る人々を拒まずに、憩いを与えて来た。

また、悠久に流れる川は、そこを行き来するすべてのものを静かに運んで行く。

という光景は、弟子丸師がこの地に拠点を構えてから、今日までまったく変わらず受嗣がれてきたに違いありません。読経の声は風鈴の音や鳥たちの囀りと混じり合い、堂内に心地よく響き渡ります。先達諸老師への報恩の心が、堂内の全ての方々の心の中にしっかりと刻まれたことと思います。

■ 記念シンポジウム



「仏教の普遍性について」をテーマに、下記のような内容でシンポジウムが行われました。

第一日目 6月8日(金)

『広大の慈門―道元禅師の坐禅の独自性と普遍性』

奥村正博師(国際センター所長)

道元禅師の坐禅の独自性について、三学としての坐禅、テクニックを用いない坐禅、修証一如の教えを通して説明され、その教えが、釈尊の教えの本質と繋がっていることを、法句経などを引用しながら説明し、道元禅師の坐禅の普遍性が「広大の慈門」という言葉で表現され、そこに生かされている我々自身への自問を続けていくことを勧められました。

『非二元論(不二)の体験から道德の再発見へ』

レッシュ雄能師(フランス行仏寺伝道教師)

生活が分別をもって展開されている世の中で、身心一如、修証一如ということに気付き生きていくことの大切さを現代社会の状況を鑑みながら説明し、曹洞禅の実践がその最善の方法であることをあらゆる方面から話されました。

『時間を越えた不連続の中の連続

―カリスマの多様性の中の統合性』

グアレスキー泰天(イタリア普伝寺伝道教師)

宗教としての仏教を体系的に捉え、儀式、經典、僧侶などの要素から考察し、その連続性と不連続性を般若心経の空論またはその思想と同様に解釈し、伝統的な曹洞禅の実践(修証一如)が、そのままそのことの実践であると説かれました。

第二日目 6月9日(土)

『真理は一つ』

青山俊董師(愛知専門尼僧堂堂長)

人間の約束事は時と処によって変化するが、変化しないのが真理であり、真理とはなにかについて、道元禅師の仏性、そして縁起のお話しを通して説明され、文化などの影響によって切り口の形は異なるが、もとは一つの真理であり、その切り口の違いを尊重することの重要性を説かれ、最後に実践についての心構えを示されました。

『仏教の普遍性―個別的なものを絶対的なものへと

統合していくことを目指す道』

マラッシ悠心師(イタリア、ウルビノ大学講師、国際布教師)

仏教の普遍性を大乘起信論などのさまざまな文献から説き、歴史的な背景を踏まえながらその概念を説明され、異文化での仏教の普遍性について言及されました。

『四聖諦』 ワンゲン霊元師(フランス龍門寺伝道教師)

普遍的な教えである四聖諦を歴史的な流れを踏まえ、般若心経の五蘊を通して説明されました。

『超えて行くこと―無我の実践』

テンブロイ天龍師(ドイツ寂光寺伝道教師)

坐禅(只管打坐)や祖録について考察しその内容を通して、坐禅によって「我」が消滅した時に現れる真の「我」の重要性を説かれました。

『世界の曹洞禅』

横山泰賢師(ヨーロッパ国際布教総監部)

日本、北アメリカ、ヨーロッパと世界各地における曹洞禅の経験を基に、宗門国際布教の経緯を説明し、今後どうあるべきかを共に模索していくことを呼びかけました。

第三日目 6月10日(日)

40周年記念パネルディスカッションが、フォーレ泰雲伝道教師の司会により、前日までのシンポジウムで発表された諸師をパネラーとして開催されました。

シンポジウムの、どの回においても会場は人人人で埋め尽くされました。会場には翻訳ブースが設けられ、発表者の言葉はフランス語、日本語、英語に訳され会場内に届けられます。世界中さまざまな国からの参加者が同じ学びの場を共有しているのです。まさに、シンポジウムのテーマである仏教の普遍性の一端を見た思いがします。

■ 全体の行事を通して



記念行事の期間中は、何百人もの多数の参加があったにも関わらず、会場の設営、運営、食事の準備、法要の厳修など、混乱も無く対処できたというのは、サマー摂心など、これまでに積み重ねられてきた経験を持つからこそだと感じます。それに加えて運営スタッフの皆様の綿密な準備運営により、今回の行事が盛大に円成したということは間違いのないでしょう。

法要もシンポジウムも同じ場所で行われましたので、法要が終わると、須弥壇が片付けられ、演台や椅子が用意されます。その手際よさにまず感心しました。

会場準備の合間、参加者は境内に設けられたテントで懇親を深めたり、各自坐禅を行ったり、それぞれのスタイルで自由に過ごすことができます。

そして、木版が鳴らされると、また境内各場所から会場に皆が集います。

その姿は日本の僧堂で日常行われている行持の様子と、見かけこそ違えども、きっと、その本質は何ら変わりがないのでしょう。

食事に関しても同様です。禅道尼苑寺では、普段は玄米を中心とした精進料理が出されますが、この記念行事に際しては、「精進料理」にこだわらない特別料理が用意されました。確かに本山でいただく食事とはまったく異なります。しかし、この地の食材を余すところ無く生かした食事は、ツアーの中でいただいた、どんなレストランの食事にも負けないものでした。配膳の手際よさも、浄人さんたちのさりげない心遣いも嬉しいものです。道元禅師の示された「喜心・老心・大心」の心が、このヨーロッパでもきちんと受継がれているのです。



日本から世界に広がる、いわゆる「曹洞禅」は、その地域により形を変えて伝わっています。例えばハワイや北米、南米などの日系社会に設立された寺院を発端とするもの、書籍論文などから広まったもの、知識階級に広がる「禅」、ニューエイジたちに受け入れられた「禅」。さまざまな形があると思いますが、ヨーロッパの「禅」は、それらともまた異なる展開を見せています。

アメリカでは、どちらかといえば他の伝統文化に拒否反応を示し、文化交流から学ぶものはない、自分たちが新しいものを創造するための手段とする傾向にあるのに対し、ヨーロッパでは、悠久の揺ぎ無い歴史伝統を根底に持つため、いかなる他文化が入っても、動じないという傾向があり、まずは他文化を受け入れ、自分なりに消化してみようという地域性があります。

シンポジウムの中で、マラッシュ悠心師は、普遍性について、それは、むき出しな状態で存在しているのではなく、その文化から提供される衣類を纏うしかないと指摘され、そのことに気付かず、特定の衣を纏ったまま、文化のちがう環境に、あたかもそれが普遍的であるかのようにして輸出されたのでは、ただ、その民族を芝居で演じるだけで、そこには宗教性や普遍性は存在しないと示されました。

そして、青山俊董師は、ただ一つあるであろう真理、いわゆる「法」というものは、時、所を越えても変わらないものであるということであり、宗派、文化、流派の違いで見方が異なるというのは、切り口が違うだけであって、真理そのものを見ているのではない。真理は仏教のもつ普遍性がゆえに、何ら変わるものではないと教示されました。

仏教における普遍性とはどういうことか、そして、どのようにしてあらゆる人、あらゆる世代、あらゆる文化の中で、独自の仏教を発展させることができるのかということについて教えるを与えていただけたものでした。

ヨーロッパ、特にフランスにおいては、日本の仏教教団こそ多数あれ、新宗教を除いた伝統仏教の中では曹洞宗の他はあまり活動されていない状況にあります。なぜ「禅」が受け入れられたのでしょうか。

記念行事に参加した方々の何名かにお話を伺うことができましたが、禅の著作に触れたり、ヨガから入ったり、社会から一度離れて静かに坐してみたいなど、人によって禅をはじめのきっかけはさまざまですが、やはり弟子丸師の存在の大きさ、偉大さを口にされる方がほとんどでした。そして、今回の記念行事についても、意義深さと、参加出来たことへの感謝のことが目立ちました。

弟子丸師の残された功績は大きく、それによりこの地で受継がれ培われてきたヨーロッパの「曹洞禅」のスタイルは、日本曹洞宗にとっても学ぶべきことはたくさんあるはずです。そして、他文化の視点から日本の禅を眺めることにより、「真理」がよりはっきりと見えてくることでしょう。

これを機に、日本とヨーロッパとの交流がますます深まり、世界の曹洞宗全体が新しい展開を踏み出す一つのきっかけになれば、きっとそれが行事開催の本当の意義になるのだらうと考えています。

末筆ながら、この記念行事を準備し運営されたヨーロッパ総監部の皆様、記念行事事務局の皆様、禅道尼苑寺の皆様、国際布教師、メンバーの皆様方に感謝の意を表し、御報告とさせていただきます。

特集2 / ヨーロッパ国際布教40周年記念行事報告

寄稿「パリ・ブロア禅道尼苑の旅に参加して」

石川県崇禅寺寺族 ^み三 ^か香 ^み美 ^{なり}成 ^こ子

この度、曹洞宗ヨーロッパ国際布教40周年記念行事にご縁をいただき参加することができました。

生れて初めてのパリに到着し、凱旋門の屋上から見渡すパリの夜景は素晴らしいものでした。

次の日パリからバスに乗ること2時間半、広大な田園風景が広がり、住んでみたくなるような町がブロアでした。ロワール川沿いのいくつものお城を通り過ぎ、田舎道を走ると La Gendronnière の立て札とシンプルな白い門柱がひっそりとたたずんでいました。

25万坪の敷地を想像させる長い参道を通り抜けると赤煉瓦の素敵なお城が目に入り込んできました。周囲の大樹の緑が爽やかでした。

鳥たちのさえずりの中で木版が鳴り、鐘楼堂を右に眺めながら各国からのお寺様が道場に入られる様は言葉に言い表せない境地でした。導師上殿の際に学道御和讃が聞こえてきた時には、私の心中はヨーロッパではなく日本を感じました。ご縁に感謝せずにはいられませんでした。思わず一緒に般若心経をお唱えいたしました。お隣のお寺様の経本はローマ字でした。

緊張感の中にも和合が感じられました。



法要後のシンポジウムでは、青山先生のご講演「真理は一つ」をみなさん真剣に聞いておられました。午後からの講演では外国にいながら自ら道元禅師様の禅を学び行じていらっしゃる。私は外国の方々の学ぶ姿勢にも感動致しました。お話ししていらっしゃる横で窓から差し込む日差しが仏様を愛らしく照らし、時折風が入ってきて風鈴を鳴らします。窓の外には花々がきれいに咲き誇っています。そこにいてだけで心が癒されるのです。仏縁のありがたさが伝わってきました。

これは何だろうと思いました。ヨーロッパでまさかこんな体験をするとは思っていませんでした。

手作りの昼食・祝膳のもてなしはまさに心をいただきました。美味しかったこと！もてなしてくださる女性のお寺様の笑顔が印象的でした。

私のお寺でも御斎をお出しする法要が数回ありますが、いつ



記念行事参加者と一緒に (中央) 筆者

まで続けられるかなーなんて思ったりしていました。もてなしの心の大切さを再確認させられました。

同時に、日本の四季折々のきめ細やかな心使いを、改めて良さとして実感いたしました。

もてなしの心を持てる、ゆとりある生活の大切さを学びました。

また一緒に食事をした方々との出会いも忘れられません。

日本で忘れられようとしている事が、ヨーロッパにしっかり息づいているように見えました。

自らが禅を真剣に学んでいる、その熱心な姿が私の心に感動を与えました。

まず足下から日本の歴史や文化をしっかり学び、世界への伝達の手段である外国語の必要性を知り、そして海外との情報交換が出来れば素晴らしいことかと思います。これから子どもたちはそうなるようになっていくように思います。すこしでも早く、子どもたちに気付いてほしいと思います。

中学1年の次男が今春、オーストラリアへホームステイに行き、水の大切さ、日本の食べ物の美味しさ、充分さなどを感じてきたようです。また、現地の子どもから「こんにちは」と挨拶をされ合掌されたそうです。そのことが不思議だと私に話してくれました。

この旅に参加させていただくまでに、沢山の方々とのご縁がありました。

私が帰るとおばあちゃんが次男に言った「お母さん無事に帰って来てよかったねー」の一言が忘れられません。

何事にも真剣に取り組む姿勢、忘れてはいけない大切な事ではないでしょうか。素敵な機会をありがとうございました。

ご一緒させていただいた皆様方にお世話になりありがとうございました。

最後にこのツアーを企画してくださった今村総監御老師様並びに総監部の皆様にお礼を申し上げます。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

特集 2 / ヨーロッパ国際布教40周年記念行事報告

寄稿「ノルウェー 武覚寺を訪問して」

神奈川県西福寺徒弟 ^{にし うみ ゆう き} 西 海 裕 貴

平成19年6月、SOTO禅インターナショナルの会報に同封されていた一枚の海外旅行のパンフレットに導かれ、母と妹とともに「ヨーロッパ国際布教40周年記念行事」に随喜させていただき、その後ツアーの一行と離れ、3人でノルウェーに武覚寺を訪ねて参りました。

ノルウェーで初めての曹洞宗寺院武覚寺を開いたラーセン宗禅老師は私が高校から大学にかけての数年間、師寮寺西福寺のお手伝いをさせていただき、親しくお付き合いをさせていただいた方です。老師は若き頃、ノルウェーに古くからある棒術のチャンピオンになり、その後現地で少林寺拳法を学び、日本の武道の奥深さに引かれ、武道修行のために来日し、武道の精神から禅に出会い、采川道昭老師に師事、大本山總持寺前貫首・板橋興宗禅師の弟子となって仏道修行を始めた方です。

5年前に母国ノルウェーのクリスチャンサン（ノルウェー最南端の素晴らしい所です）に戻り、彼の地に曹洞禅を布教するために日々頑張っておられます。現在では、数人の弟子もでき、徐々に曹洞禅の布教所として機能しはじめているところだそうです。

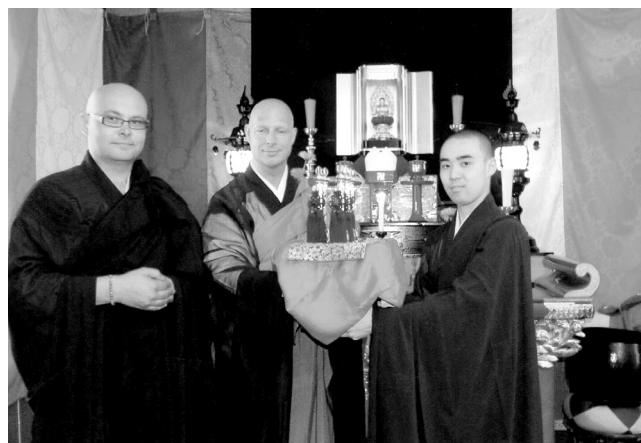
ご家族は奥様の恵里さん（日本人）と長男基之君の3人家族で、家の中は日本語とノルウェー語と英語の飛び交う国際的な環境にあります。

現在武覚寺は旧家の一画を間借りしている状況で、ご家族の住居部分と8畳ほどの本堂があります。家に関しては面白いエピソードがあり、帰国した直後、借家を探す宗禅老師をキリスト教の信仰の厚い現地の人とはまるで相手にせず、しばらく住む家も決まらない状

態が続き、困っていたところ、亡夫がキリスト教の牧師であった現在の大家さん（素敵な老夫人）が、いつかは説得して改宗させる目論見で部屋を貸してください、当初は執拗な改宗攻撃を受けたそうです。現在では、曹洞禅は決して邪な宗教ではないと認めて下さり、宗禅老師ご家族の良き理解者となり、大きな心の支えとなってくださっているそうです（ただし、仏教の信者には、成ってこないそうです）。

私は今までに2度ノルウェー武覚寺を訪れていて、今回は3度目の訪問になり、一緒に行った母と妹には初めての訪問となりました。老師のリクエストで梅花用の鈴を5つ持って、6月中旬の最高のシーズンに訪れることができ、素晴らしいノルウェーの雰囲気を感じることができました。

現在、宗禅老師は学校の教師として生活の基盤を作り、多くの人の中に溶け込み、広がる人脈の中で仏教を語り、決して急ぐことなく地道に伝道していこうとしています。今回の訪問でも、宗禅老師を始め、ご家族、お弟子さん、武覚寺の皆様の仏道に対する真摯な思いに私たちは深い感銘を受け、この先もできる限りの応援をしたいと思い、楽しかった訪問を終え、帰国の途に着きました。



（中央）宗禅老師（右）筆者



建物の右半分が武覚寺

ZCLA・仏真寺開創40周年記念行事

禅センター・オブ・ロサンゼルス（ZCLA）仏真寺は、1967年に前角博雄老師（1931～1995）により開創されました。

本年、2007年は、ZCLA開創40周年および前角博雄老師十三回忌の年にあたり、記念行事及び十三回忌法要がZCLAにて厳修されました。

日程は6月17日から20日までの4日間に及び、前角老師から法を嗣ぎ、各地の禅センター・寺院で活躍する仲間で設立された「白梅会」のメンバーをはじめ、世界各地より200人を越える関係者が参集しました。

40周年記念行事の日程は囲みのとおりです。



ZCLA開創40周年記念行事

6月17日

白梅会定例会議
夕食
業務会議

6月18日

白梅会定例会議
ZCLA暁天坐・朝課
朝食
ZCLA創設者追悼法要
白梅会会議
昼食
WPAメンバー任命式
午後のセッション
夕食

6月19日

40周年記念祝典
朝食

前角老師十三回忌報恩法要
導師 桐ヶ谷寺黒田純夫老師
坐禅
白梅会パネルディスカッション：
Zen in America
昼食
白梅会グループディスカッション
40周年記念晩餐会

6月20日

40周年記念祝典
朝食
坐禅
オープンマイク：
What has ZCLA meant
in your life?
ZCLA事業計画
「甘露門」野外劇
昼食

アメリカにおける禅についてのパネルディスカッションや、40年の思い出を語るグループディスカッション、飛入り参加歓迎のオープンマイク、「甘露門」を題にした野外劇など、ZCLA 40年の歴史と果たしてきた役割を総括するような盛大な行事となりました。

訃 報

SOTO禅インターナショナル相談役・曹洞宗宗務庁教化部長・東長寺御住職 瀧澤和夫老師におかれましては、6月8日午後8時15分、御遷化されました。

この度のヨーロッパ国際布教40周年記念行事にも、最後まで参加を切望されていたのでありますが、その行事の中で訃報に接することとなりました。

宗門要職として国際布教にご尽力され、これからの国際布教のあり方に多くの提言をいただきました。

当会にも数え切れないほど多くの示唆をいただき、本年度SZI総会では「今後も国際布教に対する御支援をますます頂戴し、教化部国際課との連携をいただき、さらに曹洞宗の国際布教に対する貢献をお願いし、私も同志の一人として頑張りたい。」との来賓ご挨拶を賜りました。

今後のご活躍が期待されるところだっただけに、本当に残念に存じます。会員一同、心より哀悼の意を表します。



瀧澤和夫老師

… S Z | 国際布教支援金に対する現地からの報告 …

在家用応量器の寄贈御礼

ブラジル イビラスー禅光寺 国際布教師 ビッチ・大樹

この度は、在家用応量器50組の寄贈ありがとうございました。この応量器を得たことにより、ようやく僧堂飯台が可能になりました。有難いです。

禅光寺はおかげさまで山内の伽藍も整い、人口3万の田舎町イビラスーの市街地から4km離れた山中にも拘わらず、ブラジル内外から年間3万人が来山するまでになりました。

禅光寺の活動は、自然環境保護教育活動・参禅プログラム・禅文化活動の3本の柱で構成されています。

その内、自然環境保護教育活動は今や世界的に高い評価を得ており、ユネスコのムリキ賞、ドイツのセバスチャン・サルガード賞を受賞しました。その受賞理由は、この地方によく見られる荒れ山を、樹木を植林することにより本来あるべき大西洋沿岸の植生の山に戻した業績、更にその経験を自然環境保護の教育活動にまで高めたことが評価されたものです。禅光寺のある山は周辺の山々同様、長年に渡る樹木の乱伐により荒れ果てていました。私たちは木々に囲まれた日本の禅道場と同じような環境を造るべく、今や希少となった土地固有の樹木を選び、一粒の種から苗木を育て、それを植林する作業を繰り返してまいりました。それは参禅道場にふさわしい環境を造るための作業でしかなかったのですが、世界的な自然環境保護運動の時流に乗り注目され高い評価を得ることとなったのです。自然環境保護活動は禅の精神となんら

矛盾しません。むしろ禅の精神そのものです。そこで禅の精神に則った自然環境保護の教育活動を始めたのです。その教育内容は他にない禅の生活を含めた体験的なものであるため、異色の教育として高い評価を得ております。教育内容は小学生向け、学校教師向け、農民向



僧堂飯台



け、成人向けと確立されています。特に近隣4市（フンドン、アラクルース、イビラスー、ジョン・ネイバ）と提携した小学生対象の教育は既に15年の歴史をもち30万人以上が参加しております。

参禅プログラムとしては、年2回3ヶ月の安居を長期参禅者用に設ける他、5日間の摂心を隔月、近隣の貧しい子どもたち向けの一泊のゼンジーニョ（禅の子どもたち）を30人ずつ年12回行なっています。また、各種団体用の参禅プログラムもあります。

昨年、州政府と2泊3日の軍警察官の研修を引受ける契約をしました。（軍警察とは普通の警察とは違うブラジル独特の組織で、国防が主な任務です。）この契約は1回50人ずつの軍警察官を年4回、計2500人の研修を引受けるものです。ですから、これから12年半に渡り禅光寺は軍警察官教育に携わることになります。ちなみに、この研修は必須です。つまり、エスピリット・サント州の軍警察官になるためには、必ず禅光寺で2泊3日の参禅研修を受けなければならなくなったわけです。

禅光寺は150haの寺領を有します。その内10haが修行のための建物や畑・庭に使用され人的活動の場になっております。残りの140haは従来エスピリット・サント州の自然環境保護地域に指定されていましたが、今回新たに周辺の土地を加え面積を10倍に増やし、ユネスコの世界自然遺産に倣った州の自然遺産に指定してもらいました。

ブラジルにお越しになる機会がありましたら、ぜひ御立ち寄り下さい。歓迎いたします。

（代筆：加藤孝正、タマーラ・カッツェンシュタイン）

『釈尊入滅の地・クシナガラ』での生活

はし もと きょう こ
橋 本 恭 子

印度は合う人と合わない人の両極端だといいます。私は、面白いくらいにピッタリとはまってしまいました。印度の人々には何ともいえない活気があり、又そうかと思えば休憩ばかりの日常を送っていたりと、見ているだけでも退屈しない、一緒に生活したら更に退屈しないそんな場所です。

大学卒業後、現場監督になるか、青年海外協力隊として活動するか悩んでいた所、タイとミャンマーの国境で日本のNPO団体に出会い相談しました。色々考えた末まずは日本で就職しようと決意。退職後、青年海外協力隊に行くしかないと思いましたが、一次試験も通過できず落胆。何かに導かれるように印度を旅行しながら辿り着いた場所がクシナガラであり、印度マイトリの会でした。団体の活動は、学校建設・先生の給料補助・教科書の配布等、外からの援助でした。現地事務所を造ったばかりで、常駐してくれる人を探していました。これからはもっと中身を大切にしていきたいとの事で、私の今までの話をする、『ここでやってくれないか』という提案を受け、自分に何が出来るかわからないけれど、1年という期間を決めてボランティアをする事に決めました。

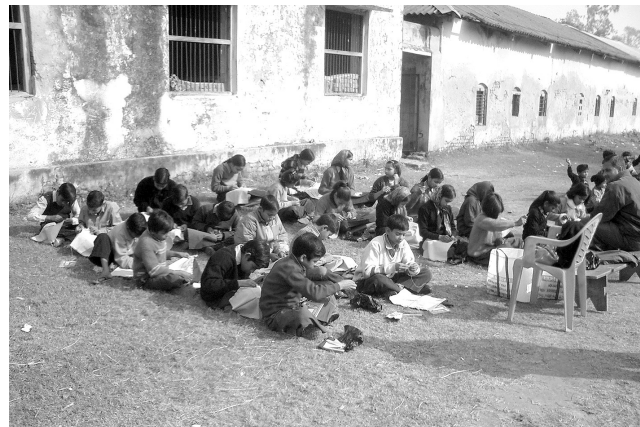
印度は、とても広い国土で生活も多種多様。800以上の言語が話されているといわれています。TVでは、IT国家だ、急成長著しい国だと騒がれていますが、それはごく一部に過ぎず、とても貧しい生活をしている人たちの方が多いです。都会では大きなホテル・会社が立ち並び、スーツを着たビジネスマンやジーパンをはいた女性を見ることが出来ますが、少し都会を離れてみると三千年以上の習慣を味わうことが出来ます。

クシナガラで一番心に感じたことは、日本の豊かさとクシナガラの豊かさの違いです。前者は、物が溢れ、学校が整っていて、生活保護があり、暮らしていく事は出来ると思います。後者は、物も乏しく、学校はあっても不十分で授業のされていない所も多くあります。生活保護などありません。しかし、今の日本に欠けている心の豊かさがあり、家族の温かさがあると私は感じました。

ある日、子どもたちに誘われ学校のある町から、子どもたちが住んで居る村に遊びに行きました。子どもたちが徒歩で通学している畑の畦道や竹藪をすり抜けて歩くこと1時間。ぼろぼろの靴を履いている子、素足の子もいます。村に着くと、小さな子がいっぱい兄や姉達のお出迎えに村の入口まで出てきていました。女の子の家に遊びに行くと、『日本人が来たぞ』と家族みんなが私の周りに集まり、外

には見物に来た人達で一杯でした。女の子が目の中の井戸から一生懸命水を汲んで、お母さんが妹に5ルピーのお金を渡し、近くのお店からクッキーを買ってきて、笑顔でどうぞと私に差し出してくれました。私の心の中では、葛藤がありました。出してくれたクッキーには何の問題もありませんが、お水には…。明らかに目の前の井戸から汲んでくれた水です。海外では『生水は飲むな』といわれています。しかし、お客様だからとクッキーまで買ってきてくれたのです。ここで手を付けない訳にはいきません。お腹を壊したら薬を飲めば治るだろう。この家族の優しさ、笑顔を裏切りたくないと思い、清水の舞台から飛び降りるつもりでクッキーとお水を頂きました。いつもお腹が痛くなるか分かりません。不安を抱えながら、早々に村を後にして帰路に着きました。きっとお腹が痛くなる、そんな心配をしながら家にたどり着き、夜になり、翌朝になりましたが全くお腹が痛くなりませんでした。井戸水も飲める体なのかとビックリして自分の体に誇りを持ちました。印度の井戸というのは、飲み水用と洗濯・水浴び用とに分かれています。違いは、井戸の深さです。大体の家庭に井戸が1つもしくは2つあります。道端にも井戸があり、朝には男性がよく水浴びしている光景を目にします。冬は、霧の中震えながら修行者の様に水浴びをしています。日が昇ってから水浴びすれば良いのにとありますが、これには宗教が関係している様です。

ヒンドゥ教のしきたりでは、毎日体を清めお祈りをしてから食事を頂きます。近年それを守る人は少なくなっているようです。貧富を問わずヒンドゥ教徒の家の壁には、お祈りをする為に神様のポスターが飾られています。印度人は、基本的に夜は水浴びをしません。晩御飯を済ませると片付けずにすぐに寝てしまいます。私の解釈ですが、食べ物が少なく低カロリーなので食べたものをしっかり吸収す



かばん製作中



出来上がった作品とともに



(中央) 筆者

る為に、食後は素早く寝るのだらうと思います。『食べてすぐに寝ると牛になる』といわれますが、ヒンドゥ教では牛は聖獣であり、日本のこの諺を聞いたら喜ぶのではないかと考えたりもします。『郷に入れば郷に従え』とはいいますが、印度は夏暑い国ですので、私は夕飯を食べてシャワーも浴びずに寝ることに抵抗がありました。ある家でご飯をご馳走になり、帰ってシャワーを浴びて寝るのだと言いますと、『帰ったら早く寝なさい。シャワーは朝浴びるものです。』と怒られました。「日本では、夜にお風呂に入ります。朝お風呂に入るとお母さんに洗濯ができないと怒られます」と答えると、『それなら仕方ないが。朝にもきちんとシャワーを浴びなさい。そしてお祈りをしてから朝食を食べなさい。』

クシナガラ滞在中に、いくつかの団体が学校訪問をされました。皆さんは口々に、子どもたちの物凄い力を持っている目の輝きに驚き感激した、と仰います。私もそう思います。子どもたちは凄く素直で純粋でした。着任当初感じた事ですが、どの小学校に行っても、子どもたちの服は破れたままでファスナも壊れたまま、教科書やペンを裸のまま持って来る子や、穴の空いたビニール袋に入れて来る子もいました。何か出来ないだろうか？会に言ってかばんを買って貰おうとも考えましたが、与えるだけでいいのかという疑問が沸きました。そこで私の得意な裁縫を教える事により洋服やファスナを自分で直せるし、自分の作ったカバンで学校にも行ける、と考え手提げかばん作りの授業をする事にしました。教科書とノートが入る大きさの簡単なかばんですが、布はこちらで用意し、子どもたちはただ縫っていくだけなのですがみんな一生懸命に作ってくれました。かばんの色は男の子には青と緑、女の子には赤とピンク。数が足

りず男の子の色が女の子に行くという事もありましたが、子どもたちは文句も言いません。これが日本だったら？と考えてみると、物が豊富にあるが故に、作りたくないと不平を言ったり、気に入らない色だったら文句を言うかもしれない。こんなに目を輝かせてはくれないと思います。多くの学校でかばん作りをしましたが、どの学校でも出来上がった子は私の所にかばんを提出に来ました。きっと教えてくれるだけで、かばんは回収されるのだと思ったのでしょうか。これはみんなが自分で使って良いのだよと伝えと、今まで以上のとびきりの笑顔で『これくれるの？』『これ持ってどこに行こう？』『お買物に行こうか、何入れられるかな？大根、たまねぎにジャガイモに。お米も入るし、ヨーグルトを買って入れよう。こぼれたらかばんが汚れちゃうかな』等、純粋な会話が飛び交い本当に心が和みました。

物が無いからこそ感じられる物のありがたさ、感謝の気持ち。決して忘れてはいけない気持ちだと思います。その気持ちから本当の豊かさが生まれて来るのではないかと思います。

クシナガラの人たちは、大ニルバーナ寺院と、そこに安置されている涅槃像に毎朝お参りしています。そして、世界各国から仏教徒が集まる、この釈尊入滅の地を誇りに思っています。

不思議な縁をいただきこの地で1年間生活することが出来ました。多くの大切な事を教えてくれたクシナガラは私の第二のふるさとです。これからの人生の中で私がこの地で学んだこと・感じたことを多くの人に伝えていきたいと思っています。

プロフィール

『発展途上国で何かしたい・何か作りたい』と思い、武蔵工大土木工学科に入学。学生時代バックパッカーの旅行の楽しさを教えられ、安宿に泊まり、20カ国以上を旅行。卒業後ゼネコンに就職。会社初の女性現場監督としてスタートするが、僅か10カ月で会社が民事再生法を申請し、退職。すぐさま印度へと旅立った。そこで、印度マイトリの会に出会い、約1年間クシナガラにてボランティア活動。

現在は、ヒンディー語を活かしBS観光名古屋支店で印度人の心を伝える添乗員として、印度人の心の深さ・温かさ・日本に欠けてしまった何かをみつけられる、そんな印度の宣伝隊員として日々活動中。

特集1 / ②両大本山ワークショップアンケート報告

両大本山ワークショップ聴講者アンケート全文掲載

(コメント・出身県・安居者の上山年)

大本山總持寺において

平成19年5月7日

- 本日、SOTO禅インターナショナルの講演を聞かせていただきました。なかなかこのような機会はないもので、大変うれしく思います。自分は曹洞宗はもちろん、仏教全体の教えなども勉強中の身であります。しかし、そんな私でも仏教の教えはとても良いものだと思ひますし、もっと多くの人に知ってもらいたいものだと思ひます。日本は無宗教といわれ、現在も仏教の後退を感じますが、それでも日本の風俗には力強く今も残っていると思ひます。日本のイメージにもとても相性がよいものだと言ひます。インド・中国・日本、それぞれ仏教の存在の仕方、布教の仕方などは違ひますが、根本とも言えるお釈迦様の説いた教えはゆるぎないものだと思ひます。そのような仏教を海外に布教しようとする活動にはとても興味を持ちます。海外にはキリスト教、イスラム教など大きな宗教が存在して、人々を救える善い部分を持っている反面、抗争などの悪い面も耳に入ります。だから仏教が優れているとかそういう訳ではありませんが、各宗教の善い所を合わせ、悪い所を少しでも少なくし、手を取り合って世界の平和を望む事ができたら良いと思ひます。もちろん将来的には自分もお手伝い出来たら嬉しいです。本日の講師の小杭好臣先生の話はおもしろい話もまじえ大変あきがないものでありました。慈悲の心が必要とされるこの時代には欠かせないユーモアのある人だと思ひました。(福島県・19年)
- 68才にてこのようなお話を聞こうとは、フシギです。(今日の講話の題のように)母の信仰心があつて、熱心さが今の年になって母の気持ちが少し理解できるようになりました。私も今の体調を気にしながら(術後なのです)の毎日です。毎日のように本山が近い故にお参りに来ています。(リハビリの為)(一般・山形県)
- 禅、お勉強したいです。今日は四大本山めぐりで参りました。御講話ありがとうございました。(一般)
- ちょくちょくウケのある話だから、聞いていてあきない。とても勉強になる話だった。(愛知県・19年)
- とても為になるお話だった。今後の修行生活に生かしたいと思う。(無記名)
- 「禅＝当たり前のことが当たり前でできる＝ありがたい」ということに感謝し、日々精進していききたいと思っております。(無記名)
- 質問にて聞きたいことがお聞きできまして、まことにありがとうございました。(一般)
- ふしぎ(妙)、縁、異体同心、禅問答を聞いているようでした。(正法眼蔵の現代語訳がほしいです。)(一般)
- 宗派の境を意識の面からとりのぞいていくことは、今後の日本仏教を考えるうえで大切なことであります。様々な方から鈴木俊隆老師のお話をきくことで、老師という人物が自分のなかで身近になっていくのがわかる。(一般)
- 雲水と一般の人がまざっている中で、話の展開がむずかしい所があったと思いますが、総体的によりお話であったと思ひます。非常に深いお話のできる方が、話がむずかしくならないように気をつかいながら、はからずも所々で深い話がもれ出たという印象です。浄土真宗本願寺派という教団の方から禅を高く評価してくださるお話を拝聴できて、雲水にとっても自分自身にとってもよかったと思ひます。講師人選がすばらしかったと思ひます。ありがとうございました。(一般)
- 若い人達に、勇気がわいてくる様なお話でした。(一般)
- 宗派を越えた不思議だなあ～で宗教心を持ちたいと思ひます。毎日「あたりまえのことを有難い」と感謝して生活したいと考えをあらためたいと思ひます。素敵な御講演(お話)ありがとうございました。(一般)
- ありがとうございました。この縁を大切にいたします。(一般)
- 修証義に「愛語能く廻天の力あることを学するべきなり」と記されている。講師が、気力・気迫のある単純な英語の単語を発した鈴木老師の言葉で認識を新にしたことを聞き、言葉以外の言葉に含まれる影響力が伝わりました。在米40年、異文化の中での布教のむずかしさをユーモアをもって話され、楽しく聞かせていただきました。理論・理屈ではなく、直感に頼ることも大事であるとおっしゃいました。自分の経験からいっても、直感を大事にすることが大切であると思うことが多々あります。(一般)
- 小杭先生のお話をお聞かせいただきましてありがとうございました。大変感謝しております。また次の講演会も楽しみにしております。(一般)
- 海外のお話を多くいただき、自分の中の世界が広がった感じがしました。宗派の違いにかかわらず、お話が聞けることをすばらしく思ひました。(福島県・19年)
- 今となっては日本人(特に若者)が仏教から離れているのに、海外で仏教を広めるといふのはとてもすばらしいと思ひました。おもしろ、おかしく話していただいて、ありがとうございました。(19年)
- 曹洞宗が100年以上も外国へ布教していることを知らなかった。今日はとてもユニークで感慨深い話が聞けてとてもよかった。本日はありがとうございました。(東京都・19年)
- 今回の講演は、国際布教ということ。さらには、曹洞宗の方ではなく、浄土真宗という他宗の方が講演するということもあり、時間を作って参加させていただきました。私は新到の修行僧なのですが、話の中に、私が修行するうえでも、励ましになる言葉、修行する上での為になる話等、大変面白い内容でありました。私達は曹洞宗、小杭さんという今日講演なされた方は浄土真宗。しかし、仏教を学ぶという上では目指しているものは同じであると思ひました。私は仏教のみならず、キリスト

- 教、イスラム教、他宗教においても、目指しているものは心の安心であったり、「平和」であったりと、同じであると思ひます。今日の講演ではその事を再認識させていただきました。とてもすばらしい内容でした。(神奈川県・19年)
- 自分から動くこと、そして動かされること。そのすべてが修行になることをあらためて感じることができた。不思議だなあ～ あへをのぼし深く、そして広く自分をきかせていこうと思ひます。(長野県・19年)
- 何事においてもまずは挑戦すること、そして体験することの大事さを感じさせられました。今日、講演に出席することが出来たのも一つの大きな「縁」として、地域社会だけでなくもっと視野を広げていけるように精進したいと思います。(茨城県・19年)
- 「ありがたい」ということは「ある」ことが難しいということに感銘をうけました。(神奈川県・19年)
- 浄土真宗がいわれる、自分の命が実はそのまま仏の命だととらえていることがとても印象に残りました。禅宗も同じ立場を基として、宗派にとらわれず、たくさんの宗派につながる根本的なところを今回の講義で見てとれて、たいへん勉強になりました。(秋田県・19年)
- 一休禅師の「無戒」という考え方について他宗の方はどう思われるのでしょうか。(無記名)
- 人との縁を大事にしたいと思ひました。(無記名)
- いずれ機会があったら、海外での布教活動に、携わってみたいと思ひていたので、体験談など、非常に興味深く拝聴させていただきました。もし、またこのような機会があったら、どうすれば関わっていけるのか、スタッフの方々の細やかな活動についても知りたいと思ひました。(静岡県・19年)
- 大変ためになりました。(埼玉県・19年)
- 「あたり前のことを当たり前でできる、ということ難しい。」大変ためになる話ありがとうございました。合掌(愛知県・19年)
- 宗教離れが進む今の世の中で、どのように布教していけばよいか、どのようにして人を救っていけばよいか、と考えることが多いが、今日一つ思ったことは、布教には感動が必要と感じた。自分がすばらしいと思わなければ、いくらがんばっても人には伝わらず終わってしまう。僧堂生活の中でたくさんの感動をみつけ、地に帰ってからはその感動を伝えていきたいと思ひます。先生の話には感動しました。ありがとうございました。(長野県・19年)
- 私はこの修行が終わったら、世界の仏教を見たいとずっと思っています。私の考えでは、修行とは、年数ではなく、中身だと思ひます。どうしたら、世界の仏教を学べるのか。今の私は、なにも知らないのですが、小杭さんの下で世界を見たいと強く思っています。私は、来年にでも学びたいと思ひます。どんなことを、世界に言うのか？小杭さんの説法も聞いてみたいと思ひます。どのようにしたら国際布教を学べますか？世界の仏法を見たいです。私は頭悪いですが、世界を見れば何か一つでも学べればよいと思ひます。連絡を待っています。世界に連れて行って下さい。何でもします修行させて下さい。今は本山を下りることはできませんが、下りの時期がきたらお願いいたします。(秋田県・19年)
- 「死ぬ時は必ず来るから、今そのことを考えてはいけない」「伝統を守り、伝統を壊す」など、心に残る言葉を多く聞くことができました。(福島県・19年)
- 世界で禅の布教をしていることは前から知っていましたが、詳しくは知らなかったのが今回の講演でその活動のお話が聞けて大変よかったです。6年ほど前、道元禅師の七百五十回忌で中国の「天童山」を訪れた時、言葉も通じない現地のお坊さんに合掌したら、向こうも合掌低頭で返してくれたとき、「音楽に国境がない様に、禅(宗教)にも国境はないんだなあ」と思ひました。「禅で繋がる世界」。自分は本山で修行中の身ですが、ここに来て己の小ささ、又今まで見てきた世界の狭さを知り、今回のSZIの活動に感銘を受けた次第であります。『己のメカネが曇っている世界も曇って見える』まさにその通りでありました。SZIの活動に興味を持ったのは、前々から世界に出て自分の目でその広さを見てみたい、という想いも有ったからであります。曹洞宗の教え、ひいては「禅」を広めたいという理由で、SZIに惹かれたのも又動機の一つであります。『手と手を合わせる合掌もある』異国の人に仏話を説法を説く。それが今の自分の理想の姿であります。本山を下りたらSZIの門戸を叩いてみたいと思ひますので、その時は是非末端でも良いので活動に加えてください。今はまだ「禁足中」ですが、禁足が明けたら連絡が出来ると思ひますので、その時はよろしくお願いいたします。(栃木県・19年)
- 他宗の方のお話を聞かせていただいたのは初めてでしたが、とても楽しかったです。せっかくご縁をいただいて曹洞宗・禅宗の宗侶となったわけなので、しっかりと坐禅をし続けて気迫を身に付け、私もゆくゆくは海外での布教も視野に入れてまずは国内から布教していきたい。(大阪府・19年)
- 今回の講演では、日本以外の国での布教活動という点に、興味を持った。日本では仏教が主流で、それ以外の宗教が息を潜めている状況だが、欧州・米国に行くとなれば逆転。日本で他宗教が受け入れられづらい様に…。世界に広めることには難がある。難しい問題であると感じた。(福島県・19年)
- 老師の国際布教における体験を、興味深く聞かせていただきました。宗派の違いがあれども、仏教を広めることに対する老師の並々ならぬ熱意に、深く感動しました。海外においても、救われたという気持ちから、人は仏教を求めるのでしょうか？人は仏教で救われるのでしょうか？私は仏教で人を救うことが出来ると思ひ、出家をいたしました。ですが、今本当に出来るのか疑問に思うことがあります。又機会がありましたら、老師の「仏教で人が救われるのか」について考えをお聞かせ願えたらと存じます。(群馬県・19年)

- 「宗教を広める人がいたら、反対する宗教の人がいるのはあたり前。妨げが入るのぐらいついて海外に行った。反対されたのを考え込んでしまったら苦になるけど、自分がそんなことを苦と感じる人間だったら海外に渡ってはいない。人はものの捉え方」という言葉がすごく印象的でした。それは今の自分に必要な言葉だったからだと思います。目の前の行為「苦」と捉えるか、「修行」(自分のため)と捉えるかによって、物事は変わってくると思います。苦と捉えずにプラス思考での行としていきたいです。今後国外での禅についての考え方などに接することのできる機会があれば、参加して行きたいと思います。(宮崎県・18年)
- 今回の講義を聞いて、禅に対する世界中の人達を垣間見る事ができて、良かったと思います。(安居者)
- とても分かりやすく、そして面白く、いつまでも話を聞いていたかったです。海外での布教は、とても大変そうではありますが、話を聞いてやりがいのある仕事だなと思いました。自分も将来、このような仕事を是非やってみたいと思います。(時泰広・宮城県・19年)
- もっと難しい話をされるのかと思っていましたが、とてもラフな感じだったので聞きやすかったです。浄土真宗の視点からではなく、禅を海外へ広める僧侶の立場からお話していただいたので、自分にも共感出来ました。所が変わればモノの見方はかわるものだなと思いました。(19年)
- 初めて話を聴いてすごいと思いました。日本の仏教を外国で広げようとする事が勉強になりました。色々な人に仏教の話を出来るように私もなりたいです。(埼玉県)
- 日本仏教が海外に進出しているのを知らなかった。日本で発展した日本独特の仏教文化が海外に認められて、少しずつ布教している話を楽しく聞かせてもらいました。他にもたくさん話があると思いますし、興味を引かれる話ばかりだったので、又聞かせてもらいたいと思います。(新潟県)
- 今回の講演を聞いて、私自身一番強く共感した事は、小杭開教師が言われた「教に国境はない」という言葉でした。確かに、既に他宗教が根付いている外国で仏教を広めるのは受け入れられなかったりと、色々大変だったようでありますが、受入れてくれる国もあり、さまざまな国や地域で仏教が広がっていることを知りました。この素晴らしい活動を続けて欲しいと強く思っております。(神奈川県・19年)
- 僧侶の方のお話を聞くのは、曹洞宗の方しか聞いてなく、他宗派の僧侶の方のお話を聞くのは初めてででしたが、とても興味深く聞かせていただきました。また話の内容も海外での布教活動についてという事で、自分は大学時代、海外、特にヨーロッパの歴史について学んでいたの、その点でも興味深いお話でした。最後に、質問にも出ていましたが、海外布教での苦労話なども聞かせていただきました。(東京都・19年)
- SZIの講演のなかで、印象に残ったのは、「あたり前のことを当たり前にやること」の大切さと「いろんな人と出会うことの大切さ」です。同じ職種の人と語り合うのも大事だが、違う職種の人達と出会うことで、いろいろな物が見方ができると言うことが印象に残りました。(山形県・19年)
- SZIの話を聞いて、海外にも寺院があるのに興味を持った。一度行ってみたい。ヨーロッパの方ではキリスト教が深い位置にあると思うが、そこで活動しているのが大変だと思うが、頑張って欲しいと思った。(神奈川県・19年)
- 当たり前のことを当たり前に出来る、これが禅宗である、と仰っていましたが、自分はまだまだそのレベルまで達していない、と痛感しました。また暗中模索し間違いを恐れなことが大事ということはどんな事でもそうだと思います。何かを積極的に行っていく姿勢は僧侶にとって大切なことだと思います。禅は形があり、人や出来事が坊さんにしてくれる、と仰っていましたが、自分もそうして坊さんになっていくのだと思う。この修行生活の一つ一つの物事が坊さんにしてくれることを思いながら修行に励みたいと思います。人と人の縁の不思議さ、大切さを感じました。小杭講師も鈴木老師との出会いで今があると云っていたことを考え、自分を振り返ると自分もこの縁の不思議さを感じます。アメリカでは様々な面白い事があるなと思いました。でも実際には苦労しているのだと思う。特に言葉、説明をすることは大変だろうと思いました。(埼玉県・19年)
- 小杭好臣先生の講演、大変興味深く拝聴させていただきました。とくに御施院に銃弾が撃ち込まれたことのお話、生々しく感じられました。経済が国際的に再編され、国境を越えた企業、労働者の活動も活発化される中、我々はいかにして宗教上の摩擦を回避し、理解を深めればよいのか、もっとご意見を伺いたいと思いました。本日はありがとうございました。(宮城県・19年)
- 禅を広めるためにこのような機会があることさえ知らなかった。外国にも布教することによって禅のよさが分かってもらえることはすごいことだ。坐禅は形で伝わる事の凄さが分かった。(茨城県・19年)
- 今回、SOTO禅インターナショナル講演会に参加いたしまして、講師の先生のお言葉の中に「不思議だなあ」という、お話がありました。「不思議だなあ」という、「だあ」の部分に色々な意味、空間、世界があるように私も感じます。供養のお話にもあったように、私自身もありがたいお話に感謝しつつ、弁道精進しつつ、頑張りたいです。(神奈川県・19年)
- 世界における仏教の活動及び広がりを知る事ができた。これから先の仏教がどのように変化し、又受け入れられるのかを知りたいと思う。その中で曹洞宗が、世界という舞台の上でどのような位置付けになるかは、我々一人一人の行動に関係してくるだろう。(三重県・19年)
- 各国で禅が広がっているのを知り、禅というのは凄いと感じた。あとその禅を各国に広めている布教師の方もすごいと感じた。(福島県・19年)
- 大変興味深く話を聞かせていただきました。私自身も海外での布教には興味がありますが、まずは地元の住民、若い人達にもっと仏教に進んで興味を持ってもらうためにも、まずは自分の身近のところから活動をしていきたいと思っています。(静岡県・19年)
- 北米における仏教の広まり、布教における苦難、宗派を越えての出会い、とても面白く、又ためになるお話でした。女性についての話がいくつかありましたが、やはり日本人の価値観の違いが分かるものでした。多弁ではなく、本当に心に届く言葉を自分も言えるようにしたいと思いました。(神奈川県・19年)
- 「禅」を海外へ…私にはスケールの大きすぎる事だと思っていました。無理な話だ…。しかし小杭先生のお話を聞いているうちにそうではないと思いました。面白い裏には大変な事が沢山あると思います。ヨーロッパ国際布教総監の今村源宗老師

- には以前お世話になった事があります。今回改めて、「禅」について私ももっと学んでいきたいと思いました。(東京都・19年)
- 禅というもの海外でも広まっていることにビックリしました。自分も機会があれば海外へも行ってみたいし、布教というは僧侶の大事な事の一つなので、日本だけではなく海外での布教もしてみたいと思いました。(長野県・19年)
- 御山の外にいるようで、楽しい講義でしたが、肝心の海外での仕事について余り語られてなかったと感じました。その点のみ、少し残念に感じました。(千葉県・19年)
- 未来が明るくなるような、元気が出るお話をありがたうございました。修行ガンパロウという気持ちになって、心が入れ変わりました。(宮崎県・19年)
- 今回の講演を聞いて、SZIというものはどんな物なのか、少し分かりました。これだけ禅というか、世界に伝わっていることがすごかったです。自分でも少し海外に興味があったので行ってみたいと思いました。今はそんな事言っていられませんが、今後自分で行けたら自分の目で色々見てみたいと思いました。(無記名)
- 日本だけではなく海外での宗教活動など、普段はあまり聞きなれない話などが聞けてよかったです。(富山県・19年)
- とても和やかな雰囲気での講演会だったと思います。私が特に興味を引かれた話は、(質問の返答だったかもしれませんが)仏教用語を英語で説明するときの困難さについてでした。私は總持寺に安居してから、何度か外国人の拝観の方と拙い英語でお相手をしたが、異なる母国語を持つ人に、仏教用語の細かな意味合いを伝えることに、とても困っていました。今回の話がとてもよいヒントとなりました。(宮城県・19年)
- 海外での布教活動の実態など、まったく知らないことでありましたが、大変興味深く聞かせて頂きました。海外での布教活動というのは、世界を知る意味でも大変意義深いものであると思うので、機会があれば又そういうものに携わってみたいと思います。(石川県・19年)
- 最初は難しい話をされるのかと思ったんですが、聴きやすく、興味深い内容が多かったので時間を忘れてしまいました。自分は布教活動について、もっと話を聴きかけました。(兵庫県・19年)
- 海外の第一線で活動を展開している講師の方をお招きしての本日の講演会を聴講でき、非常に光栄でした。海外における布教活動の大変さやさまざまな障壁がありながらも、それを乗り越えて活動を進めて行く事の大切さに心を打たれました。海外での苦勞も講師の先生の面白い話に、つい笑ってしまう場面もあり、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。こうした貴重なお話を聞く機会を提供していただき、誠にありがとうございました。(無記名)
- 老師の貴重な体験を聞かせていただいて勉強になりました。海外布教など自分では経験したことのない話などもしてもらい、興味を持ちました。日本から出て海外でも活動しようとする意気込みもすごいです。世界には、いろいろな国があり、人が違っても釈尊の教えは正確に伝わらなきゃいけないと思います。その為に頑張ってください。(秋田県・19年)

大本山永平寺において

平成19年 5月 8日

- 海外で仏教とは、日本の様に宗派によって形式が大きく違ったものではなく、〇〇宗という考え方の下で仏教に入るという事ではなく、たまたま興味をもって入った〇〇宗で、それも海外では宗派という枠を超えて、何宗でも仏教という一つの宗教として考えられている様な気がして、とてもシンプルで、自分の信じたい様に良いところを信じ、変な先入観無しに行きつけそうところが良いと思いました。海外での話も、国内でも役に立ちそうな事ばかりで勉強になりました。(北海道・18年)
- 大変楽しかったです。すべてを包み込めるような人格、すべてを受け入れられるような人、そこから始めたいと思いました。(愛知県・18年)
- 禅や海外布教という枠組みにとらわれないお話で、自由なお話を聞けたと思います。布教のあり方よりも、一人の僧としての生き方を見せていただけた様に思います。(愛知県・18年)
- 海外での布教の講話、非常に興味深く聞かせて頂きました。それ以上に面白かったのは、布教によって出会う人との縁についてです。正直な話、私は海外での布教は考えていません。私は私自身の身近な人々へ私の伝えられることを伝えていければと考えています。仏教とは体験する宗教だと思います。その体験は同時に、己という人間を成長させるものであるとも思います。そうした己を、己の縁で出会う人々に話し、伝えていくことが宗教家としての一歩であるという考えを、この講演でより強くすることが出来ました。ありがとうございました(秋田県・18年)
- 普段永平寺で聞くことのできない話が聞けて、貴重な体験ができました。今後このような機会が増すとうれしいです。(無記名)
- 浄土真宗の日を通して、曹洞宗・禅のすばらしさを知りました。また、アメリカでの仏教の活躍を知り、そして必要性を知りました。日本における布教活動にも必要なこと、熱意を感じ、国外の事を通し国内のことを考えるチャンスになりました。今は日本や世界はグローバル化して小さくなり、宗教の問題や人種・民族の問題がある中で、仏教の立場や必要性・可能性の大きさや使命感みたいなものを考えることができました。(神奈川県・19年)
- 今回の内講で、全米にある寺院65カ所の中に白人の方が住職を兼務していると知って、小杭好臣総長の行ってきた行動のすごさを知りました。私は国際布教活動については、ほとんど何も知らないのですが、この度のお話で興味を持ちました。(静岡県・19年)
- 「如來さまも許してくれるから坐禅に來なさい」という鈴木単頭老師のお師匠さんのお言葉には、坐禅は宗派に関係なく、またその延長線上に国や宗教に関係なく一つになることができるのではないだろうかと思惑させられました。(大分県・19年)
- いつもと違いユーモアのある話を聞くことができました。言葉の壁、宗教の壁など海外で布教することは容易ではないと思いますが、それにチャレンジし続けている小杭

老師は素晴らしいと思いました。講義中にお話された言葉「暗中に模索することを生きがいにし、試行錯誤を恐れず」というフレーズはこれからの私の心の中で生き続けたいと思います。有意義な時間でした。(無記名)

■小杭老師のように仏教に生きる人生に、私は宗派の違いですが憧れをもちました。布教活動は、すごく大変なことだと思えます。考え方の違いや、生き方の違い、作法の違いも沢山有ると思います。その中で仏教のありがたさを海外の人にどう伝えるかが大事だと思います。それは一見簡単そうに見えてすごく難しい事なんだと今日すごく実感しました。これからも仏教の歴史や教え等を海外の人に広めていって頑張ってください。今日はありがとうございました。並びにSZIのスタッフの皆様も日々の活動ご苦労様です。私達もこれからどういった僧侶になりたいのか等を考えさせられる講演になったと思います。(大阪府・19年)

■坐禅は力になるものだと思います。並びに一般の方々が禅や仏教に興味を持ち、期待をするというのはいいなぁと思い、自分も海外寺院に行ってみたいと思いました。「英語に訳すと意味が少し伝わらないところもあるかもしれない」ということと、「言葉には力がある」という言葉がありました。又「TodayはやっぱりTodayじゃ。Today not yesterday. Today not tomorrow. Do you understand?」の言葉は心に残りました。とても面白い方で聞きやすかったです。実際にどのような活動をしているのか、知りたいと思いました。(青森県・19年)

■宗派の違いが有っても通じる所がある様に、仏教というもののが国が違っていても通じているという事は、素晴らしい事だという感想を持ちました。禅というものが、国を越えて通じることの出来る力を持ったものであるのだという事をもっと広めていって欲しいと思いました。(長野県・19年)

■このSOTO禅インターナショナル講演会を聞いて、禅の広さ・言葉の壁、すべてが新鮮で、いつもと違う内講、とてもユーモアを感じました。布教すること、とても素晴らしいと思いました。自分の中でまた新しい禅を見つけたような気がします。短い時間でしたが有意義な時間をありがとうございました。あと「去るものは追わず」僕も共感しました。こつこつとSOTO禅インターナショナルをやっていき、海外の発展また自分達の発展に役に立てればと思いました。(千葉県・19年)

■今回、普段と違った楽しいお話をしていただきありがとうございました。海外での布教や異教とのコミュニケーションなど色々なお話を聞いて仏教(宗教)の在り方を考えさせられました。私は今まで、曹洞宗のお寺に生まれて23年間曹洞宗のことだけを見てきましたがお話の中でアメリカでの布教の際教えをならいに来る方の中にはまったく違う宗教から参加する方などがいて、とても開かれた宗教だと思いました。(熊本県・19年春)

■本日、小杭先生とお会い出来て、又お話を聞かせていただいて、感想として一言で言うとするならば、「サッパリ」しました。私は布教について、何か行動を起こしたり、経験したことはほとんどありませんが、私の実家は、34軒もの曹洞宗寺院が隣接していて、たくさんの和尚さんに囲まれて育ち、また社会人経験が10年程ありまして、在家の方達からの視点でもお寺を見つめました。その中で感じたことは、お寺に気持ちが良い向いていて、その中でも積極的な人達にしか、お話をしたり、布教活動といったものをしていないように見えました。もちろん檀越も忙しく時間もあまり無いかも知れませんが、でもやっぱり和尚さんとして、お釈迦様や両祖様の教えを広く伝えるのはとても重要な務めだと思っています。自分のお寺の檀信徒さんとか、そういった垣根を一切取り払って誰とは言わずに色々な人と出会う機会を作りたいと思っています。小杭先生のお話を聞いて背中を押していただいたような気になりました。布教の方法はまだ決まっていますが、自分ができることから、一人でも多くの人と先ずはお話したいと思っています。(青森県・16年春)

■小杭先生の講義は少し国際的な禅のイメージが崩れるものでした。海外の雲水は、坐禅を主として、日本の修行僧が体験へ行っても、坐禅の凄さにまいてしまうという話も聞いていたので少し意外でした。厳しい戒を守るそれとは違い、ある意味で全てを受け入れるような、そんなおおらかなイメージがありました。一つ目に印象に残った話は質疑応答の時、「勧誘」が修行よりも重要視してしまっているのではないかと言われた時、「勧誘によってわかる事、それは修行しに来た者が10人いて6人帰るような事があれば、それはこちらになにか非があるのではないかと、それを自らで見つめ直す必要があるのではないかと」という事をおっしゃった時、このような考え方、視点の考え方でもものが見られるのだなあと、感銘を受けました。(静岡県・17年春)

■布教の中で大変さ、例えば、異国での文化の違いに男女の差別の問題やその国々であった教えの解釈の問題などこれから克服していかなくてはならないことが分かり大変なになりました。また、所々にユーモアのある内容もあり、楽しくその時間を過ごさせていただきました。(愛知県・19年春)

■普段、浄土真宗の方の話を聞くことができない場がないので大変タメになりました。アメリカで仏教の普及活動をするなんて、すごいと思いました。しかもほぼアメリカ全土に渡ってやっているので、尊敬に値しました。永平寺に来るまでSOTO禅インターナショナルという言葉を知らなかったけど、興味を持ってたので今後また講演会があるならばぜひ随喜したいです。(岐阜県・19年春)

■海外布教の楽しさ、難しさを考えさせられました。教えの翻訳の問題もありますが、私が最も考えたことは海外布教の意義です。布教の目標、異文化の地に敢えて布教していくこと、これまで自分も海外等、積極的に活動したいと思っていたが、そこに、しっかりとした考えを持ち目標を立てて行こうと思いました。(静岡県・19年春)

■海外の方々には「何故？」という純粋で基本的な内容を質問してこられる事が多いと思います。その素直な疑問を受け取り、応えるには自分も分かっていなくてはいけなし、分からない事は明確にする努力をしなくてはいけません。日本国内であれば「昔からそう決まっている」と片付けられる時でも、海外だとそうはいかない、そういった面でも、国際布教は己を知り、修行が深められる良い環境だと思います。一方で、国内での経験も大事だと思います。形をまず学び、型を知ってその基本を知る、「何故」と常に自分に問いかける。海外での布教を視野に入れた時、一つでも分からない点を無くそうと動く、これが大事です。言葉だけでなく、歴史、文化、風土、何もかも連った地での布教、一歩間違えれば誤った理解を植え付けてしまう、責任も重大です。日本では何とかなっている僧侶の在り方を、異文化の地に投げ入れ、ものがく。衆生の教化にはまず己を知り、もう一度仏門を叩いた自己を見つめ直す事が必要だと思います。事情が許すならば、そんな環境に身を置きたい、そう思いました。

(京都府・17年春)

■今回のご講演を始めるにあたり、SZI会長の方が、他宗派との布教に關しての様々な相違点を確認して見て下さい、という様な内容のことをご挨拶されていましたが、(明確に記憶しているわけではないのですが)、まあ、とはいきませんし、この様なニュアンスのことをおっしゃっていただきたいと思います。先生のお話を聞いてみると、布教や、他人に何かを伝えるのに、例えそれが仏教の様に多くの宗派に分かれているものであっても、宗派の違いは無いのではないかと、思いました。先生のお話を聞いてみると、他に物事を伝える際、言葉やその人の雰囲気といったものの持つエネルギーというものを非常に重要視されている様に感じました。先生がこれまでに出会われてきた多くの師も皆エネルギーに活動されていたからこそ、様々なことを成し遂げられたのだと思います。我々も各々が自分の進むべき道を見つけ、エネルギーを持つ僧侶として活動できればと思います。(埼玉県・18年春)

■SOTO禅インターナショナル講演会は今回初めて出席したのですが私自身布教すること伝道することに対して、その意義がよくわからない部分が多く、布教も一つまちがえれば勧誘になると思う。ただ、外国の方が仏教に興味をもつことで国際化というよりも広域にわたり考えや思想が浸透していくことはとても良いと感じた。また、日本の仏教は仏教というよりも日本的仏教、つまり日本人にあわせた仏の教えになるわけで、外国の方に対応させた般若心経の存在を知り驚いた。妻帯すること、肉、魚を食べる僧侶は仏教徒にあたるのかはこれからの課題でもあるし、考えていきたいと思った。(東京都・19年春)

■先生の温かみあふれるお話にグイグイ引き込まれました。何より印象に残ったのが、不思議な縁の話。先生が開教使をあきらめずに苦しまれていたからこそ、鈴木師との縁を呼び込まれたのだと思うし、人は暗中模索、試行錯誤の時期こそ、人を成長させ、また、自ずと縁を呼び込むのだと思った。また、興味深かったのは、アメリカの仏教徒(関心層)が単一の宗派に属しているというよりは、さまざまな背景(ベトナム仏教、ヨガ等)を持ち、サークルだという点である。また、日本からアメリカに行き開教使同士の交流が活発であるという点にも関心を持った。祖師仏教としてセクト化、タコツボ化している日本仏教界に風穴を開けるのは、ひょっとしたら海外で他宗派の交流、そして、そこから生まれるかもしれない、新しい何らかの動きかもしれないという期待を持った。また、私も、国際布教に強い関心を持った。(青森県・19年春)

■小杭講師さんの飾らない気さくな人柄にすごく好感がもてました。70年代のヒッピームーブメントの頃の話がとても興味深かったです。アメリカ人の宗教観や、それに關わってきた小杭先生自身の宗教観についてももっとくわしく聞いてみたかったです。禅は人々の救いになるのだろうか考えた。講師さんの話を聞いて、アメリカの人々が仏教に興味をもつ理由は、日本のように単に『家』の宗教が仏教だからということではなく、『ヨガやベトナム仏教』などさまざまなバックグラウンドがあり、信仰する理由も先祖を崇拝する(もちろんそれだけではないが)ことだけではなく、むしろアメリカ人は禅や坐禅、禅的なものの考えに魅力を感じるからだと思った。(愛知県・19年春)

■今回SZIの講演で小杭好臣先生の話を開け、国際布教の活動がどんなものかわかりました。また、海外でのお経の読み方が英語でも読んだりすることにおどろき、しかも、お経も木魚に合うように作られているというのがすごいです。曹洞宗の国際布教の活動力の入れかたが感じられます。昔は、お寺は、日系人の集まる場所でサークルみたいな場所とは、想像もつかなかったです。国際布教は、いろんな宗派との関係等があり少し興味がわきました(三重県・19年春)

■小杭好臣先生が最初に言われた、「不思議だなあ」という縁、この言葉にすごく反応しました。この不思議だなあという縁は、素晴らしい縁にもなるし、ほとんど自分に関係・影響をおよぼさない縁もある、でも、その後、小杭好臣先生が言われたように、「人生にむだはない」、このように両者の縁にむだはないということに共感しました。また、般若心経が英語で書かれていることを初めて知りました。英語にしても木魚にあうようになっているのに驚きました。最後に、「暗中模索、試行錯誤」という言葉がでてきましたが、現在、まさにその最中なので、気になりました。(愛知県・19年春)

■今日の講演会を聞き、一番印象に残ったのは、外国では、女性差別がほとんどなく、布教活動が行われているということです。日本では、昔から、男性が有位になっている傾向がある中、他の国では、男性や女性とか、関係なく、仏教が行われている環境と比べると布教のやり方に本当に感銘を受けました。(福井県・19年春)

■小杭先生の話をして聞いていて、禅宗ではないですが、坐禅の大切さを伝えていただきました。言葉が伝わらなくても気合で伝えるや、坐禅のエネルギーは一人一人に勇気をあたえるなど、坐禅には力があるのだと思いました。次に海外での布教活動は思っていたとおりの大変なのだと思いました。その地域に元々ある宗教と対立しない形になるのですし、先生の言っていた、「10年がんばれば、何か生まれる」という言葉も簡単に使っていました、10年というのは、とても大変なことだと思いました。お経も英語にしたりと、いろいろ工夫をしなが活動しているという点にも感心いたしました。お話もみんなが興味を持つような話をしてくださって、ありがとうございました。最後に曹洞宗も男女平等を積極的にやっていくべきだと思いました。そうすれば本当に回りの見方が変わりもっとと広がっていくのに考えさせられました。(北海道・19年春)

■普段、なかなか聞くことのできない海外布教の話、また他宗派の話というとても貴重な話を聞くことができました。とすれば、身近な狭いところには意識が向かないものですが海外という大きな世界の話を知りたい、仏教とは、元々、狭い日本だけのものではなかったんだ、ということに、気づかされました。これから仏教に関わっていく上において、大きな視点、広く柔軟な視点、感性をもって仏教を学んで生きたいと思いました。又、お話の中に、先生の人柄にもじみ出ていて、楽しく聞くことができた。話をすること、いろいろな工夫をしなが活動しているということですが、それだけではなく、人がなければ話の内容も意味のないものになってしまうと思います。ことばに人を入れることで、話もふくらみ、内容も聞き手の中にスッと入ってくるのだと思います。少ない時間の中ですら、単に海外布教のことだけではなく、そういったことも学ぶことができ、良かったです。機会があれば、是非、また、このような話を聞いてみたいと思いました。(19年)

■海外での布教活動という事を聞いて思うのは「途方もない大変な事」を言うなぁと思いました。既に100年近く活動が続いている。驚きません。外国の映画で「スター

ウォーズ」というものがありますが禅にまつわるモノが取り込まれていますが、私はこれも「布教活動の賜」なのかなと思います。外国の方にとって「異質なモノ」だから興味がわく、そして知り、取り入れたとなると、なんというか嬉しく思います。その一方で私達はそういった興味を持っていた外国の方の為に日々精進、見本になるように修行したいと思います。また、奥様を紹介なさった後？話のトーンとか少し雰囲気が変わった気がします。素敵なお夫婦だと思います。互いに刺激しあっている感じを受けました。理想的な夫婦ではないかと思いました。こういった夫婦が増えればよい方向に向かっていくのではないのでしょうか。(北海道・18年春)

■違いを認めながら和合するにはユーモラスと「ゆるす」ということが重要なのではないかという印象を受けた。国内の他宗教と和合しながら他国に布教する…。アメリカの方で、「メイドインジャパンは絶対買わない、買いたくはないが、良いモノを調べると、メイドインジャパンであった」というのは、ふくみをもって良い表現だと思う。「いいモノは必ず売れる」という視点からすれば、仏法が正しく伝えられれば、布教者の資質というのも様々あっていいと思った。苦みつぶしだけが仏法を伝えるカタチではないと思う。人種や文化、国を越えて仏法を伝えるには、布教者、檀信徒のたがいの心のゆとり(ニッチ)が必要だと感じた。(山形県・17年春)

■アメリカ人は仏教に期待していると言っていますが、私の受けた印象は、ある種のクラブみたいな趣味としての側面しかないのではないのでしょうか？本当の意味での改宗をしたという人は少ないのではないのでしょうか。(兵庫県・17年春)

■"Today is Today. Today is not yesterday Today is not tomorrow ←「今日は今日、今日は昨日じゃない、今日は明日じゃない」⇒「今日は今日の風が吹く、明日は明日の風が吹く」こんな感じ？でしょうか？石の上にも10年。「人間は必ず死ぬ、だからそんなに死に急ぐな、必ず死ぬ、ゆっくりいけば！」ああ、良い言葉だな。今の僕にピッタリです。死にたいという気持ちになった時、人間は必ず死ぬという事象はさけることが出来ませんので、もう少し生きてみれば、ゆっくりと、焦らず…。いいじゃん、walk on your way slowly, please"(17年)

■今日の講演を聞き、海外における仏教、曹洞宗の布教において宗派というものは関係ないのだと思った。しかしそれは曹洞宗、また浄土真宗の教えでなくともいいという事になる。つまり、これからの布教活動においては、宗派をこえた、もっと普遍的な新たな教義が仏教そのものに必要ではないかと感じた。(岩手県・19年春)

■海外に禅を布教するという事は、とても素晴らしいと思います。(無記名)

■海外への布教伝道は、言葉や価値観が違うことが大前提でそれをふまえた上でお経を訳し、作法を行っていくことが仏教の本質を伝えて形式だけでは伝えられないのである意味違う宗教になってしまっていると思います。でも、いろいろな形になっても受け入れる仏教(日本宗教)はすごいと思いました。(愛知県・19年春)

■曹洞宗の活動が、世界でこんなに多く行われているとは思いませんでした。国内だけでなく、曹洞宗の活動は多くの人達から関心を集めているますが、海外の方達の関心の強さは、日本人以上であるように思えました。(無記名)

■不思議だな。縁もそうですが、私の身の回りだけだと思っていた仏教がヨーロッパで既に40年布教されている。生まれた時には既に。不思議。勧誘しないでも仏教がなくなつたつらい。暗中に模索するのを生きがいとし、常に明るいところがいると思っている自分。暗やみを模索するのが生きがいになると考えれば不思議と楽かもしれない。私のいとこは浄土真宗。ちゃらちゃらしています小杭師も見た感じも話した感じも似ています。不思議な講演でしたが、あとあと味がでくるんだと思います。(無記名)

■布教という宗教の一手段から多くの社会問題が派生したのは周知の事実である。それはプロテスタントとカトリックの対立、主にアイルランド共和国のファーストという所の事情を考えれば分かる。今回の小杭師の講演に於いては布教のすばらしさや、布教の正統性のみを話されていたが、私は宗教対立や人種差別が根強いアメリカ合衆国に於いて仏教布教の直面している障壁などを知らなかった。又、格差社会である(今の日本も同様に)なりつつあるが中で、一体どのような人達が仏教に帰依しているのか、を知らなかった。又、質問にであったが、その土地、その土地で生まれた一思想、いわゆる宗教というものを布教することの良し悪しを考えさせられた講演でありました。最後に、宗教の枠組を越え、このような組織があることを知れただけで私の仏教に対する期待が増しました。ありがとうございました。(長野県・19年春)

■今回、小杭好臣先生の話しを聞かせていただき、まず思った事は、アメリカでの仏教とは「禅」とくくられていることです。ニューヨークや、ロサンゼルスに仏教が広まるとは、文化の違いからみても、相当に難しいと思います。小杭先生もおっしゃておられましたが、仏教が広くアメリカに、日本の仏教のような型で広まるのではないかもしれません。しかし、その国の文化に合わせ布教活動を行っていくということは新に今までの仏教を見直す事も出来、進化していく仏教も見える事が出来るので、仏教が更に広く知れ渡っていくのではないかと思いました。(無記名)

■SZI講演会に初めて随喜させていただきました。講師の小杭好臣さんの御話はとても解りやすい言葉で海外での出来事や人生や、さまざまな体験をして頂き外国の布教現状に興味も持つ事ができて私も世界の宗教に目を向けたいと思いました。小杭講師の歩んできた北米はすばらしい旅をして外国の相互の布教活動の活性化に貢献できれば多くの人々が宗教を広めていくと思います。(無記名)

■興味は永平寺に上山する以前からあった内容でありましたが、身近にあるものではなく、非常に漠然としている「難しい物」というイメージが元々ありました。あの短時間では語りつくせない内容の講義であると思いますが、その概略がつかめて、ぐっと自分の中で型を成したのではないかと思います。海外布教は非常に柔軟性が大切になってくると思いますし、これから一層の発展をとげるものと考えています。私自身も現段階では興味があるというにしかすぎませんが、本山での修行を通じて考えていきたい将来の道の一つとなりました。また機会があれば是非海外布教の実態や現状について詳細な事をお聞きしたいと感じました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。(山梨県・19年春)

■本山で修行をしていると、仏道の厳しい面ばかりに集中してしまいがちでしたが、本日の講演では、仏教の寛大さ、自由さを感じることができました。また、そのような面が、布教において重要であると考えさせられました。(無記名)

■真侍さんの質問も鋭かったが、それに対する小杭さんの回答の仕方も勉強になった。宗派の違いはあれど、布教の精神に違いはないと思える講演でした。(無記名)

■小杭好臣師の何事もつつみ隠さない態度、答えられないことはあまいにせずに分か

らないとはっきり伝えるスタンス、大変勉強になりました。様々な事を海外でチャレンジなさっている人もいるのだと思い、またやるべき事や沢山あるのだと気付かされました。曹洞宗と浄土真宗の違いはあるものの宗教者としての立場の違いはなく、学ぶべき所があれば頑なに拒まず、積極的に受け入れて行く姿勢が大事だと学びました。曹洞宗の僧侶としては肉食妻帯でも理解、解釈説明していくか、課題として大きいものだと思います。良い人になろうとしなくてもいいんだ、どんな人物でも良いじゃないか、とても励ましになる言葉です。(神奈川県・19年春)

■曹洞宗や他宗派の国外における布教活動について全く知らなかったので良い勉強になりました。また今回は、浄土真宗の方がいらっしゃいましたが、次は同じ禅宗の流れである臨済宗の国外布教活動があるならば、それについても知りたいし、曹洞宗の国外布教活動との比較をしてみたいです。小杭開教師のお話についてですが、笑いをこらえるのが大変でした。しかし、おおまかな説明しなかったで、もっと細かくどの様に布教しているのを知りたかったです。(無記名)

■とても、おもしろく、いい講演会でした。今日の話聞き、私も世界ではばたきたいと思いました。(無記名)

■日本仏教会の海外での活動を生で聞かせていただきありがとうございました。講演の内容ですが、「根本はそのままかわらなければならない」といった主旨が、自分の考えているこれからの曹洞宗とどうつきあっていくのかということへの一つの道しるべとなりました。また現代における「葬式仏教」へとなりさがっている部分に対しても積極的に向き合えば変わらないのだということも考えさせられました。他の点ではやはり、おもしろい話がよかったです。固い話一辺倒よりもあんな話があるべきというのは私個人としては好きです。これから機会があれば、このような内講を同じく他宗派の人にもまじえてお願いしたいと思います。(京都府・19年春)

■鈴木老師の海外布教でのエピソード「Today は is やっぱりTodayじゃ云々」について、鈴木老師の魅力や坐禅によって培われた力等の話、とても楽しく聞かせて頂きました。小杭先生の「不思議だな」⇒「あ〜」の世界、損得、好嫌などの頂上では説明できない、ご縁としか言いようがない等のお話も大変興味深く拝聴させていただきました。同時に、その語り口も魅力的で、坐禅とは違う浄土真宗の方ならではの修行力とか、不思議な雰囲気を感じました。とても貴重な機会に出会えたご縁に感謝しております。ありがとうございました。(合掌(19年春)

■国際布教に興味をもてませんでした。夢や希望といったものが無かった気がします。一生勧誘とノルマで、信者獲得と、営業で、終わってしまう気がします。(三重県・13年春)

■今いち、よくわからなかったです。海外の布教には興味があります。本山の古参の人たちの海外研修の発表もたのしみにしています。機会があれば海外の禅にも一度ふれてみたいです。(青森県・17年春)

■私は布教活動の場に立つことがないので国際布教はおろか日本での布教活動として何をしているのかまったく知りません。しかし、海外に関しては非常に興味があります。海外旅行に行った時の文化や習慣の違いにふれた時、感動したり、好奇心をかきたて自分にとってプラスになるからです。もし、海外研修や海外の人と交流を持てる場・機会があれば積極的に参加したいと思います。日本でも地域によって葬送儀礼の違いがあるので海外においてはもっと違いがあると思います。柔軟な気持ちでその違いを受け入れ、良い点を取り入れ、これからの時代に対応していける活動ができればいいと思います。今回の内講は他宗派ですが、海外の現状を知れて良かったと思います。また、このような内講を期待しています。(秋田県・17年春)

■海外でのさまざまな人との出会いによって支えられたエピソードを通して、人との縁という事について話して頂きたいと思う。私個人としては、SOTO禅インターナショナルの講演会であり、これから先、永平寺を下りてからの自分の活動について明確なビジョンを持ってない人が多いと思うので、国際布教の現状について、具体的な話を聞きたかっと思う。どうして海外へ行くと思ったのか、行ってみてどうだったのか、そういう話が聞いてみたいです。ただ、質疑応答を通して、自分にとっての仏教、禅について考える事ができて良かったです。(18年)

■外国の方が男女差別が少なく、女性でも住職をしたりしているというお話を聞いて日本も見習うていかなくてはならないと思いました。(愛知県・18年春)

■異文化の中での布教活動は大変な苦労があると思いますが、それ以上に人々との出会いによって様々な物が得られるのだと今日の講演を聞いて思いました。海外への布教活動にも興味が高まりました。(無記名)

■仏教の海外布教をされている第一人者の話が聞けて、とても光栄でした。人との出会いが自分の人生を大きく変えてくれたと言われていましたが、私もいろいろな事に挑戦してそういう人に出会いたいと思いました。男女平等とはいっても、まだ日本はアメリカにはだいぶ遅れていると思いますので、そういう考え方も変えていかなければならないと思いました。(愛知県・17年春)

■出会い不思議なあ〜 私は布教ではなく海外ボランティアをやっていたのでそちらのほうをやっていたと思います。またどこかでお会いできるのを楽しみにしています。小杭先生が国際布教で良かった事は出会いという事ですね。私も同感でした。ありがとうございました。(愛知県・18年春)

■この講演を聞いて私は海外への布教に興味を持ちました。また、これからもっと前向きに安居を続けようと思いました。小杭先生が若い頃、自分の実力の無さに絶望して自殺しようと考えていたときに「人は必ず死ぬのだから、今急いで死ぬことはない」と鈴木先生が言われたというエピソードを聞いて、私ももっと頑張ろうと思いました。私は物質感が悪く、いつも悩んで安居してきました。この話はいい話だと思いました。(滋賀県・18年春)

■所詮アメリカの様にキリスト教の地盤が既にあり、合理性を好む民族に禅の教えが広まるかと疑問に思う。何れかの目的の為に修行ではないということがわかってもらえらるか。かくいう私も来る者拒まず去る者追わずでいいじゃないかと考えていた。しかし今の情報にあふれる世の中に於いてアメリカの人にとってわかりやすいように翻訳しなければならぬ事、そしてそれは車の右ハンドルを左ハンドルに換える程度の事で仏教としての本質を変える事では無いとどと知った。(山口県・18年春)

会費納入者・賛助金納入者名簿

2007年7月20日まで

埼玉県	広徳院	高橋秀雄	静岡県	瑞雲寺	平野克史	愛媛県	法竜寺	仁田喜潤
埼玉県	昌福寺	新井隆司	静岡県	龍泉院	内山秀三	愛媛県	瑞心寺堂長	榑崎通元
埼玉県	常楽寺	荒井禮一	静岡県	随縁寺	櫻井孝順	佐賀県	広蔵寺	大宅弘海
埼玉県	普濟寺	羽金文雄	静岡県	栄林寺	猪俣正孝	佐賀県	本光寺	小島宗光
埼玉県	東竹院	岡部雅明	静岡県	高林寺	岩田弘之	長崎県	皓台寺	茨木兆輝
埼玉県	見光寺	岸 世一	静岡県	満願寺	月出俊典	長崎県	西蓮寺	水町宗典
群馬県	長楽寺	石塚正道	静岡県	重林寺	小原智司	長崎県	青眼寺	中村覚道
群馬県	東善寺	峯岸正典	愛知県	西光寺		熊本県	洞禅寺	村上和光
群馬県	昌雲寺	村上泰賢	愛知県	龍潭寺		大分県	芳證寺	藏山光裕
群馬県	祥雲寺		愛知県	春江院	宮田春光	宮崎県	松屋寺	野田素裕
群馬県	竜華院		愛知県	曹流寺	堀部明宏		善栖寺	
群馬県	桂昌寺		愛知県	長松院	篠田一法			
群馬県	建明寺		愛知県	大光院内	田中俊光			
長野県	桃源院	山本健善	愛知県	安用寺	押田清道			
長野県	正麟寺	宮澤淳毅	愛知県	愛知学院大学				
長野県	常門寺		愛知県	愛知専門尼僧堂	青山俊董			
山梨県	泉龍寺	大塚雄参	愛知県	神蔵寺	柴田隆全			
福井県	つばた書店		愛知県	(株)安江	安江英雄			
福井県	洞雲寺	斎藤賢隆	愛知県	地蔵寺	神野哲州			
福井県	御誕生寺	板橋興宗	愛知県	永沢寺	岡島博司			
福井県	宗生寺	石塚良光	愛知県	天徳寺	加納博人			
富山県	自得寺	松本誠諦	愛知県	霊岩寺	川橋範子			
富山県	明禅寺	佐藤博道	愛知県	地蔵寺	浅井宣亮			
富山県	東信庵	岩井恵澄	愛知県	宝泉寺	江川辰三			
新潟県	名立寺	橋 徹之	愛知県	松月寺	富尾智恵			
静岡県	秀源寺	飯島誠之	岐阜県	正宗寺	原田道一			
静岡県	永明寺	加藤孝正	三重県	長楽寺				
静岡県	先照寺		三重県	正伝寺	北野良昭			
静岡県	延命寺		大阪府	妙壽寺	栖川隆道			
静岡県	法幢寺	秋田弘隆	京都府	松本屋	藪下敏也			
静岡県	元長寺		京都府	宗仙寺	細川浩代			
静岡県	孤雲寺	尾崎光昭	京都府	苗秀寺	大谷俊定			
静岡県	大慈悲院	野原央全	京都府	正誓寺	山本現雄			
静岡県	山王寺	青山嶺雲	京都府	祥雲寺	中小路問道			
静岡県	一乗寺	青山義裕	兵庫県	長命寺	西村英寿			
静岡県	冷泉寺		島根県	大岳院	中村見白			
静岡県	貞善院	木南広峰	島根県	松源寺	佐瀬道淳			
静岡県	信香院		岡山県	成興寺	小倉玄照			
静岡県	洞雲寺	糸柳格順	広島県	聖光寺	田中哲彦			
			山口県	福田寺	齊藤大等			
			山口県	華嚴寺	磯部誠司			

■ 賛助金納入者芳名一覧

北海道	法徳寺	伊藤禅龍
岩手県	祇陀寺	
宮城県	大雄寺	小島孝尋
福島県	清水寺	菅野靖久
福島県	天徳寺	細川正善
東京都	慈眼寺	桜井英幸
東京都	石夢工房	
東京都	泉岳寺	
東京都	東長寺	瀧澤和夫
東京都	観泉寺	田中芳生
神奈川県	興禅寺	市川智彬
神奈川県	西福寺	西海秀晃
神奈川県	大船観音寺	
茨城県	鏡徳寺	山田栄一
茨城県	龍泉院	北条正興
栃木県	光真寺	黒田俊雄
埼玉県	慈眼寺	
埼玉県	大仙寺	
埼玉県	興禅寺	武田秀嗣
埼玉県	楞嚴寺	稲田碩哉
群馬県	竜華院	
静岡県	大慈悲院	野原央全
愛知県	地蔵寺	浅井宣亮
京都府	正誓寺	山本現雄
愛媛県	法竜寺	仁田喜潤

第40回全日本仏教徒会議神奈川大会のお知らせ

このたび下記日程にて、全日本仏教徒会議神奈川大会が横浜にて開催されます。SOTO禅インターナショナルでは協力事業としてこの大会をサポートしております。

日 程

11月19日(月) 13:00~17:30

- ・基調講演「現代社会における仏教の役割」
- ・分 科 会「アジアの平和と仏教者の役割」
- 「少子高齢化社会と寺院のありかた」
- 「現代社会における仏教葬儀のありかた」
- 「生命倫理と仏教者に問われること」

・全体報告会

11月20日(火) 9:00~12:30

- ・記念式典
- ・特別記念講演 「信ずる心と平和」 グライ・ラマ法王14世テンジン・ギャツォ

会 場 横浜みなとみらい パシフィコ横浜

チケット 19日の基調講演・分科会は無料。

20日の特別記念講演は事前予約制・3000円です。

お問合せ 神奈川大会実行委員会(西有寺内) 045-661-0166

SZI ホームページ リニューアル しました!

このたびSZIでは「海外寺院ガイドブック」のコンテンツを加え、ウェブサイト进行全面リニューアルしました。今後さらに世界各国の方との情報共有と相互交流が円滑になされるよう、親しみやすいウェブサイトをめざしていきたいと思っております。皆様のアクセスをお待ちしております。(担当:内山)

<http://www.soto-zen.net/>

編集 後記

この度、SZIのお仕事に参加させて頂くことになりました。右も左も分からないまま、深く考えもせず編集担当を引き受けてしまった為、SZIスタッフの諸先輩方に甚大なご迷惑をお掛け致しました。お盆前の多忙な時期でもあり、未経験ゆえに慌てる事しきりでありました。「驢事未了、馬事到来」の如き状態に陥りましたが、先輩諸氏の適確なご指示と、熱い気持ちに助けられ、何とか35号発行に至りましたことは感慨無量です。

編集作業には、メーリングリストによるメールの活用、インターネット上の画面を共有し、ネットによる遠隔地音声同時会議を行う等、「電脳と頭脳のコラボレーション」とでもいうべき、最新の試みがなされました。

編集担当の役目はほとんど果たせませんでした、今後は福島会長はじめ諸先輩の下で指導頂きながら、少しでも役に立てる人間になりたいと思っております。(赤間秀弘)

第9回 ゆめ観音 in 大船 アジアフェスティバル

第9回 アジアフェスティバル in 大船

つながる ひろがる アジアの ねがい
Yume-kannon Asia festival in Oshiage

ゆめ観音

2007年9月8日(土)
大船観音境内にて
12:00-20:00 雨天出店のみ
入場 300円 (アジアへの義捐金として)

主催 ゆめ観音実行委員会 (大船観音寺・SOTO禅インターナショナル)
後援 鎌倉市・かながわ国際交流財団 協力 第五教区・即心会
http://soto-zen.net/yume
問合せ先 ゆめ観音実行委員会 0467-43-1561
JR東海道線 大船駅西口徒歩5分 公共交通機関をご利用下さい

アジア各国各地域の法要・舞踊、出店などアジアの方々のみならず、日本の方々にも楽しめるよう、また各国の交流の場となる祭典です。

是非多くの方々においでいただきたく、ご案内申し上げます。

また、このゆめ観音開催について、広報のご協力をいただけたら幸いに存じます。

第9回 ゆめ観音 in 大船 アジアフェスティバル

開催日時 9月8日(土) 12:00-20:00
開催場所 大船観音寺境内 (JR大船駅西口徒歩5分)
入 場 300円 (アジアへの義捐金として)

〔平和祈願法要・平和の祈り〕

平和宣言(SZI)・台湾佛光山寺・萬灯供養法要など

〔民族舞踊・芸能〕

中国琵琶・二胡・中華獅子舞・ベトナム月琴・モンゴル馬頭琴・和太鼓・ちんどん・ベリーダンス・朝鮮舞踊など

〔出 店〕

インド政府観光局・かながわビエンナーレ絵画展・アジア各国支援NPO・神奈川県仏教会ブースなど

主 催：ゆめ観音実行委員会

(大船観音寺・SOTO禅インターナショナル)

後 援：鎌倉市・かながわ国際交流財団

協 力：第五教区 即心会

問合せ先：ゆめ観音実行委員会 0467-43-1561

または SOTO禅インターナショナル事務局

詳 細：http://soto-zen.net/yume

世界唯一 総檜のコンサートホールで聞く
シルクロード・音楽の旅

2007年8月25日(土)
16:00開場 17:00開演

会場：檜チャリティーコンサートホール
〒250-0285 東京都大田区東大田 0463-93-1505

入場料：前売 3000円 当日 3500円
全席指定 17:00開演開始
会場によるご入場が基本です

主 催：JWS 協力：SOTO禅インターナショナル 神奈川県仏教会
予約・問い合わせ：ろくよう社 TEL 0463-93-1505
http://silkroad.jpn.org

世界唯一 総檜のコンサートホールで聞く 天平の響き「シルクロード・音楽の旅」

8月25日(土) 16:00開場 17:00開演

会 場：吉祥院・檜チャリティーコンサートホール

J R東海道本線 「真鶴」 駅より徒歩20分

入場料：前売 3000円 当日 3500円

予約・問い合わせ：「ろくよう社」 TEL 0463-93-1505

(限定300席です。ご予約はお早めに！)

主 催／JWS

協 力／SOTO禅インターナショナル

後 援／神奈川県仏教会

URL http://silkroad.jpn.org

会報7ページに出演者からのメッセージ、詳細がありますので併せてご参照下さい。